

Canon EOS

620・650



使用説明書



日本語版

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

キヤノン EOS 620/650 は最新の電子技術を総結集して開発された、モータードライブ内蔵の高級AF/AE一眼レフカメラです。

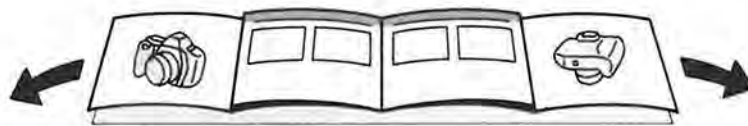
「動表現をより自由に」

これがEOSのテーマです。EOS 620/650は2種類の高性能AFモードと秒間最高約3コマで駆動するモータードライブを最大の武器に、動いている被写体でも正確かつ迅速に対応することができます。また、フィルムの給送やフィルム感度セットの自動化はもちろん、光のパターンや被写体の大きさまで自動的に判断して逆光でも適正露出が得られる評価測光、使用レンズの特性に合わせて最適な組み合わせを選ぶインテリジェントプログラムAEなど様々な先進機能が盛り込まれています。さらには、暗从中から日中シンクロまで完全に自動化したスピードライト420EZ/300EZ、日付けなどを写し込めるクォーツデートバックE、撮影データの記憶ができるテクニカルバックEなどの専用アクセサリをご使用になれば、撮影領域を格段に広げることができます。

EOS (イオス) とは、カメラとレンズ間の情報伝達および制御方式が完全に電子化されたところから名づけられた、Electro-Optical Systemの略称です。また、EOSはギリシャ神話に登場する「あけぼのの女神」でもあり、次代をになう真のAFカメラの幕開けを告げています。

EFレンズ (EFはElectro-Focusの略) はEOS専用のレンズで、どんな焦点距離のレンズを使用しても高速かつ正確なAF制御を可能にするために、レンズ内モーター方式を採用しています。

ご使用にあたってはまずカメラを手にとり、よく使用説明書をお読みいただき、十分にご理解くださるようお願いいたします。



表と裏表紙の各部名称を図のように開いてご覧ください。各部名称についている番号は、本文中の番号と対照できるようになっています。

各部名称



目次

撮影の準備

1. レンズを取り付けます…………… 6
2. 電池を入れます…………… 8
3. 電池をチェックします…………… 9
4. フィルムを入れます……………10
〔フィルム感度の自動セット〕……………12

基本撮影編

1. メインスイッチを全自動
マークに合わせます……………14
2. カメラを構えます……………15
3. AFでピントを合わせます ……16
4. 露出を確認し、撮影します……………17
〔表示パネルの照明〕……………18
5. フィルムは自動的に巻き戻されます……………19
〔フィルムの途中巻き戻し〕……………20

応用撮影編

1. メインスイッチの機能……………22
2. AFモードのセット ……24
3. フィルム巻き上げモードのセット……………26
4. 撮影モードのセット……………27
 - (1) プログラムAE ……28
 - (2) プログラムシフト機能……………30
 - (3) シャッター優先AE ……32
 - (4) 絞り優先AE ……34
〔被写界深度について〕……………36
 - (5) 深度優先AE ……38
 - (6) マニュアル(手動露出)……………42

5. 部分測光……………44
6. 露出補正……………46
7. オートブラケティング……………48
8. 多重露出……………52
9. AFの苦手な被写体 ……54
〔手動ピント合わせ〕……………56

その他の撮影

1. セルフタイマー撮影……………58
2. フラッシュ撮影……………60
3. バルブ撮影(長時間露出)……………63
4. 赤外写真撮影……………64

主要アクセサリ……………65

手入れと保管……………72

その他の注意……………73

関連資料……………75

主要性能……………82

付属品の扱いについて

(ストラップとケース)……………87

保証書について

同封されている「ご愛用者カード」をお送りください。キヤノンEOSご愛用者として登録させていただくと同時に、本製品の「国際保証書」をお送りいたします。もしご愛用者カードをお手元に置かれますと、万一故障した際、保証期間内の無料修理を受けることができませんのでご注意ください。

「ご愛用者カード」は必要事項をご記入のうえ、ご投函またはご購入店にお渡しください。尚お送りくださる際、販売店名印がない場合は、お手数ながら手書きにて店名、住所（または所在地名）、電話番号をご記入のうえお送りください。

撮影の準備

1. レンズを取り付けます。



- 1) レンズの底蓋を回して外します。
• 取り付けるときは、レンズ側の赤指標と底蓋の○印を合わせて行います。



- 2) ボディキャップを回して外します。
• 取り付けるときは、カメラ側の赤指標とキャップの○印を合わせて行います。



- 3) レンズとカメラの赤指標を合わせ、レンズを押し付けます。



- 4) レンズ全体を完全に止まるまで回します。完全に取り付くとカチッという取り付け音が生じ、ロックがかかります。
- レンズを外すときは、レンズ取り外しボタン⑪を押しながら、取り付けのときと反対方向に回します。



- 5) レンズキャップを外します。

- レンズとカメラは写真の位置に各種の電子接点を持っています。汚れ、傷、指紋などは接触不良や腐食の原因となることがありますのでご注意ください。
- レンズを外したときは、電子接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置いてください。



2. 電池を入れます。

電池はリチウム電池パック（2CR5，6V）を1個使用します。



1) コインなどを利用して、グリップ④を外します。



2) 写真のように、 \oplus \ominus 接点をカメラの方に向けて電池を入れます。オレンジ色のレバーで電池がロックされるまで、十分に押し込んでください。

3) グリップを確実に取り付けます。

電池を交換するときは、オレンジ色のレバーを上押ししてから行ってください。また、三脚をお使いのときは、カメラを三脚から外して電池交換をしてください。

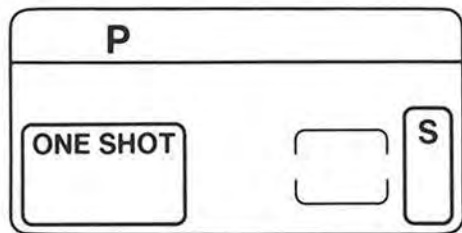


3. 電池をチェックします。



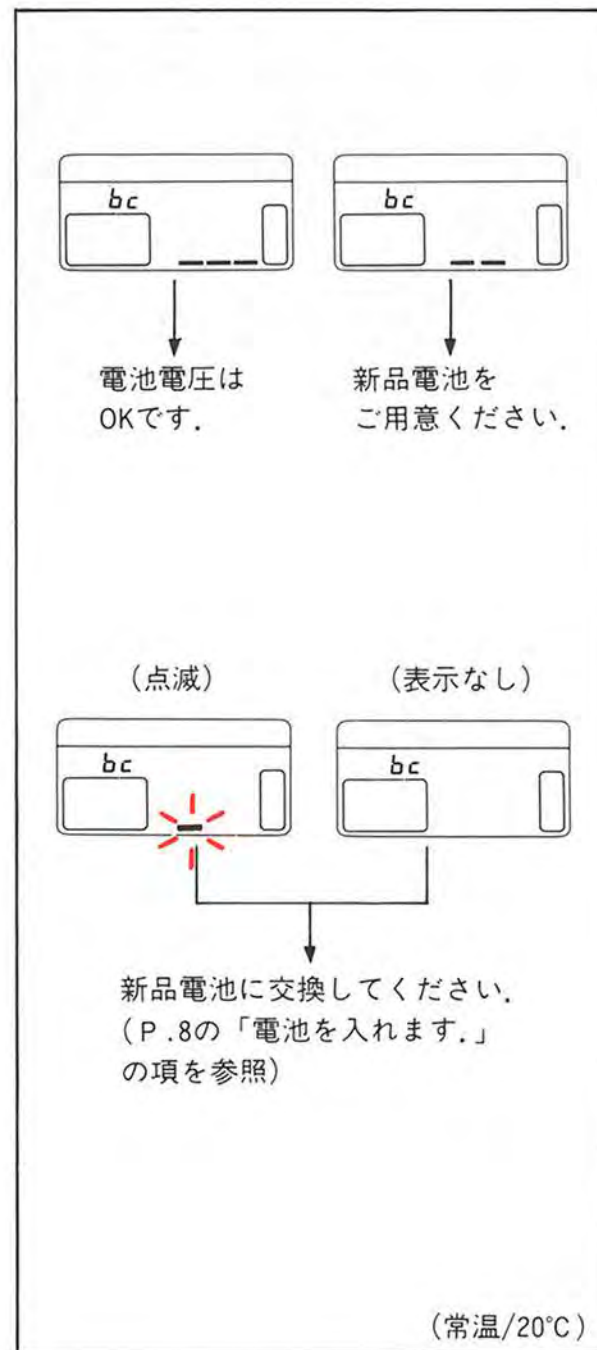
1) メインスイッチ⑮をL以外の位置 (O, A, または (∞)) に合わせます。このとき表示パネル①に液晶表示が出ます。(もし表示が出ないときは、電池の向きが正しいか確認してください。)

(表示例)



2) 裏蓋の下にあるスイッチカバー⑳を開きます。

電池チェックボタン㉓ () を押し、表示パネルの電池チェックマークで電池電圧を確認します。



4. フィルムを入れます。



1) 裏蓋ロックボタン⑬を指で押し付け、さらにそのまま裏蓋開放レバー⑫を押し下げると、裏蓋が開きます。



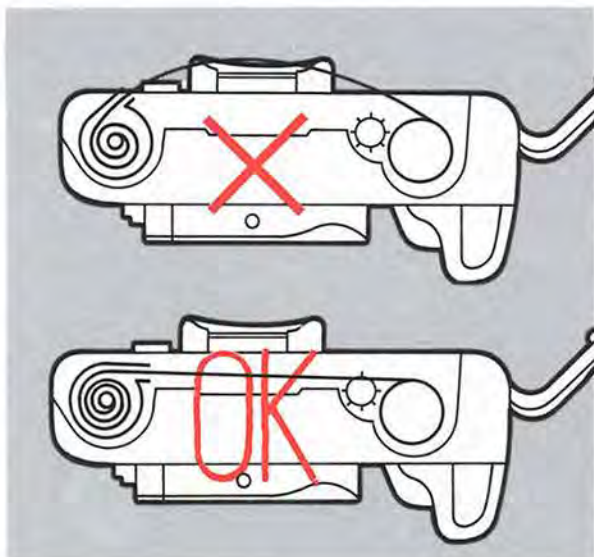
2) 写真のように、フィルムは先端を斜めにして入れます。このとき、表示パネルにフィルム在否確認マーク (◎) が出ます。



3) カメラを倒さないように、左手でカメラとパトローネ（フィルムの容器）を押さえながら、右手でフィルムを引き出します。

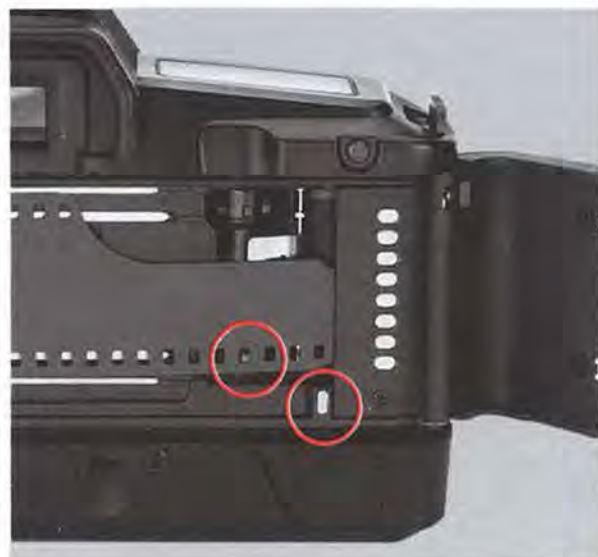


- 初めてカメラを使用するときは、フィルムを入れる前に、裏蓋の内側についているプラスチックカバーを外して捨ててください。
- シャッター幕は非常に高い精度を必要とするため、絶対に手で触れないでください。また、フィルムを入れる際にも、フィルムの引き出し部分がシャッター幕に触れないようご注意ください。



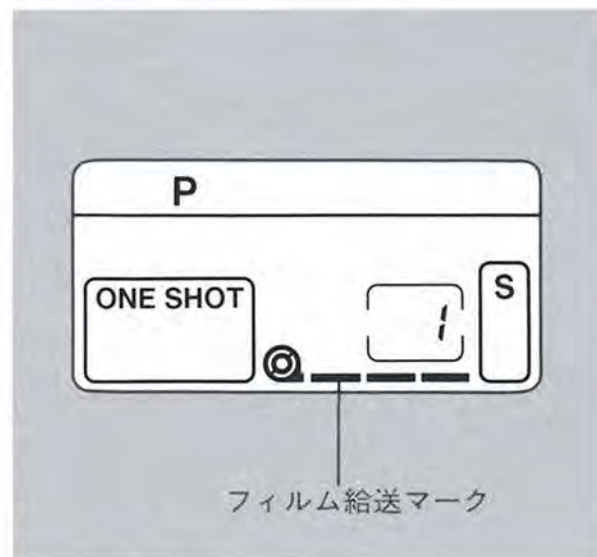
4) フィルムがたるまないようにして、フィルムの先端をオレンジマークに合わせます。

フィルムによっては引き出し部分が特に長く出ているものがありますが、そのようなフィルムはパトローネ（フィルムの容器）に少し巻き戻し、オレンジマークの位置に合うように長さを調節してください。



5) フィルムの先端がオレンジマークに合っていることと、フィルムの穴がカメラ側の歯車に合っていることを確認し、裏蓋を閉じます。

湿度の高い場所では、フィルムはカメラに入れる直前にパッケージから取り出してください。高湿度下に放置したフィルムを入れると、フィルム切れなどを起こすことがあります。



6) 裏蓋を閉じると、カメラが自動的にフィルムを巻き上げ1枚目をセットし、自動的に止まります。このとき表示パネルに“1”とフィルム給送マークが出ます。

- フィルムが正しく送られていない場合は、フィルム給送マーク全体が点滅し、シャッターが切れません。フィルムを正しく入れ直してください。

〔フィルム感度の自動セット〕



DXマーク付きフィルムをご使用になれば、フィルム感度は自動的にセットされます。自動セットされたフィルム感度は、フィルムの1枚目がセットされるまでの間に表示パネル上で確認できます。

フィルム感度：

フィルムが光に感光する度合で、ISOで表します。数値が大きいほど感度が高く、少ない光で写真を撮ることができます。

DXマークのないフィルムをご使用になると、ISO数値が点滅して警告をします。次の手順で正しいフィルム感度をセットしてください。セットできる範囲はISO 6～6400です。

- 1) メインスイッチ⑱をAまたは(∞)に合わせます。
- 2) スイッチカバー⑳を開き、黄と青のボタンの両方(㉘と㉙)を同時に押して、表示パネルにISOを出します。
 - ・黄と青のボタンを同時に押すと、パネル表示はISO数値のみになり、指をボタンから離しても約8秒間この状態が保たれます。(8秒のタイマー機能)
- 3) 電子ダイヤル㉚を回してフィルム感度をセットします。
 - ・8秒経過後にパネル表示は元に戻ります。8秒以内にタイマー機能を解除したいときは、撮影モード選択ボタンを押してください。

基本撮影編

ここでは全自動機能を使っでの撮影方法をやさしく解説してあります。本編をお読みいただければ初めてカメラをお使いになる方でも、スナップ、風景、記念写真等の通常撮影は十分にお楽しみいただけます。

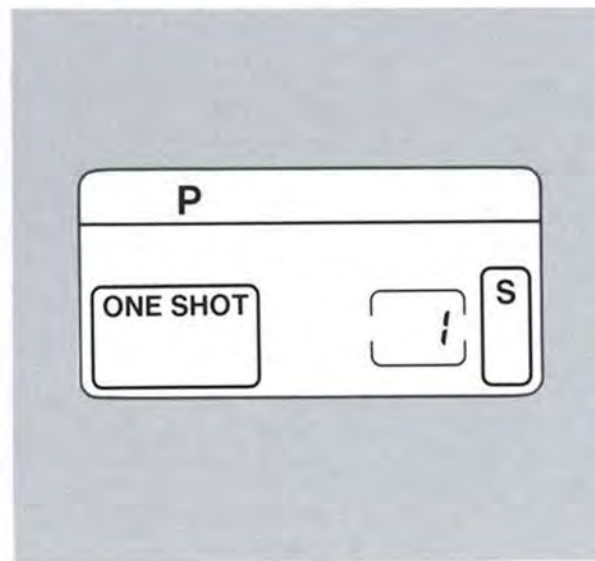
1. メインスイッチを全自動マークに合わせます。



1) レンズのフォーカスモードスイッチ⑨を「AF」に合わせます。



2) カメラのメインスイッチ⑱を全自動マーク（緑色の□）に合わせます。



これでセット完了です。このとき、表示パネルは上のようになります。

ONE SHOT——ワンショット：AF（オートフォーカス＝自動焦点）モードのひとつです。

P：AE（自動露出）モードのひとつです。

S：フィルムの巻き上げモードのひとつです。

メインスイッチおよびパネル表示の詳しい意味についてはP.22～27をご覧ください。

2. カメラを構えます。



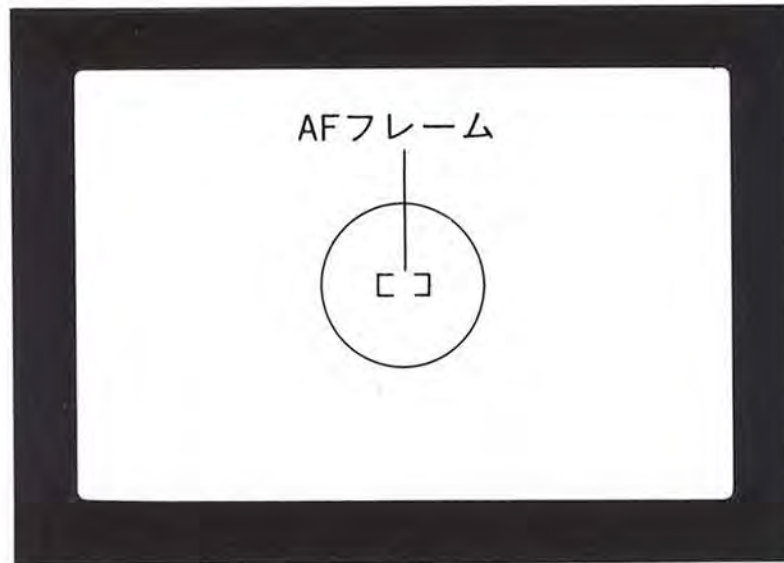
シャープな写真を撮るために、カメラが動かないように構えてください。

- 1) カメラを手のひらで支えるように持ちます。
- 2) カメラを持つ手のひじを軽く体に付けます。
- 3) カメラを額に付けて、ファインダーをのぞきます。
- 4) 両足をそろえずに、片足を軽く踏み出して体を安定させます。



- 撮影のときカメラが動くことを「手振れ」と呼びます。手振れ写真はいわゆるピンボケとは違い、全体がボケた写真となり、シャープに写っているところがありません。
- 構え方に決まった方法はありません。ご自分に合った方法で行ってください。構え方の練習は鏡の前で行うと効果的です。
なお、実際に撮影するときは、建物・椅子・テーブル等を支えとするのもひとつの方法です。

3. AFでピントを合わせます。



1) ファインダーをのぞいて、中央部のAFフレームを被写体（撮りたいもの）に合わせてます。



2) 軽くシャッターボタン③を押します。自動的にピント合わせが行われ、ピントが合うとファインダー下部に緑色の●マーク（フォーカス表示）が点灯します。また、同時にピピッと短い電子ブザー音（フォーカス音）が鳴ります。

- ・シャッターボタンを軽く押ししている間は、ピントはロックされます。（P.24参照）
- ・AFでピント合わせができないときは、フォーカス表示が点滅して警告します。この場合、シャッターは切れません。（P.54～56参照）

AF作動中はレンズが動く部分に触れないでください。

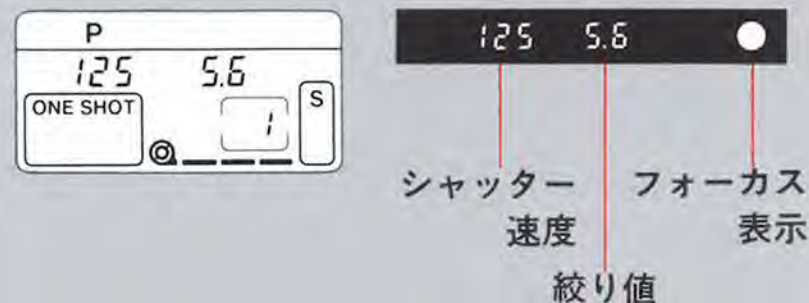
4. 露出を確認し、撮影します。

1) 軽くシャッターボタンを押したままにして、ファインダー下部の露出表示（シャッター速度と絞り値）の点灯を確認します。表示が点滅しなければ露出は適正です。

- 軽くシャッターボタンを押すと、シャッター速度と絞り値は指を離しても約8秒間継続して表示されます(8秒のタイマー機能)。

- 露出は適正でも、カメラが自動的にセットしたシャッター速度が手振れを起こしやすい低速になると、ピーッピーッピーッという長い電子ブザー音が鳴り、手振れを警告します。この音が鳴ったら、P.15の「カメラを構えます。」の項を参考に慎重にシャッターボタンを押してください。また、できるだけ三脚を使用するか、フラッシュ撮影に切り換えることをおすすめします。

(適正露出表示例)



- 適正露出が得られない場合は、シャッター速度と絞り値の両方が点滅して警告します。但し、点滅する絞り値は使用レンズによって異なります。
 - ①シャッター速度の30"と絞り値が点滅しているときは、暗過ぎますのでフラッシュ撮影に切り換えてください。
 - ②シャッター速度（EOS 650は2000, EOS 620は4000）と絞り値が点滅しているときは、明る過ぎますのでNDフィルター（減光用）を使用してください。



- 2) 軽くシャッターボタンを押したままにして，構図を自由に決めます。
- 3) 静かにシャッターボタンを押して撮影します。シャッターを切ると，カメラが自動的にフィルムを巻き上げます。

このカメラは光の状況・パターンや被写体の大きさまでも自動的に判断する，先進の「評価測光」を装備しています。被写体（撮りたいもの）が暗くつぶれがちな逆光撮影などでも，露出の補正をすることなく，被写体を適正露出で撮ることができます。

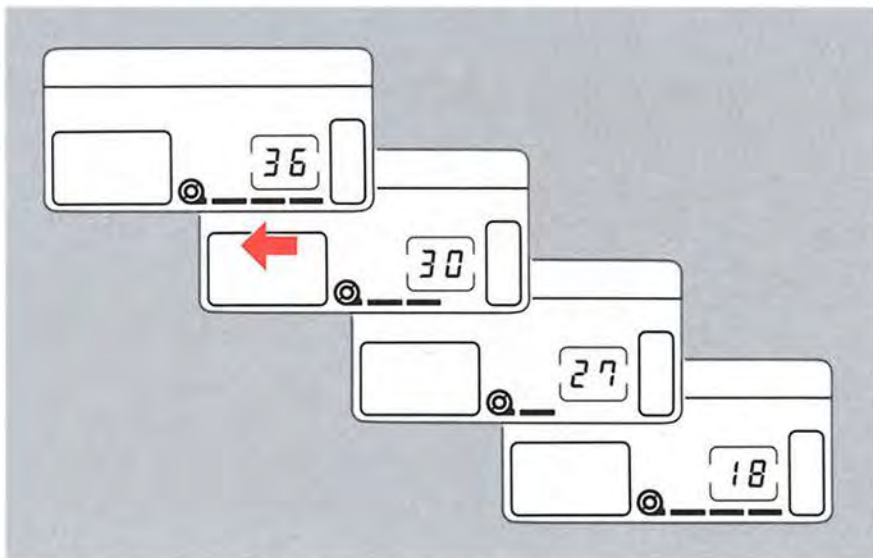
表示パネルの照明（EOS 620のみ）



- 暗くて表示が見にくい場合は，照明ボタンを②6を押してください。表示パネルは約8秒間照明されます。
- ・8秒以内に照明を消したいときは，もう一度照明ボタンを押してください。

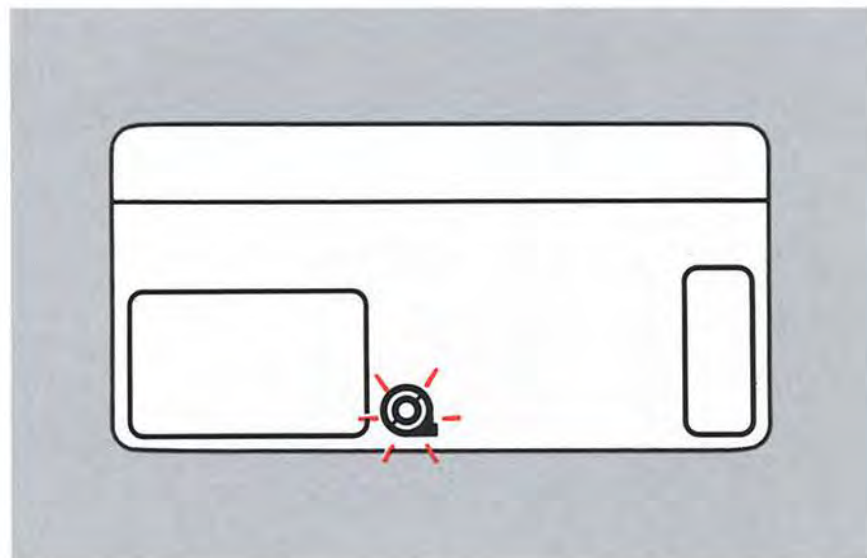
カメラを使用しないときは，不用意な電池消費を防ぐため，必ずメインスイッチを“L”にしてください。

5. フィルムは自動的に巻き戻されます。

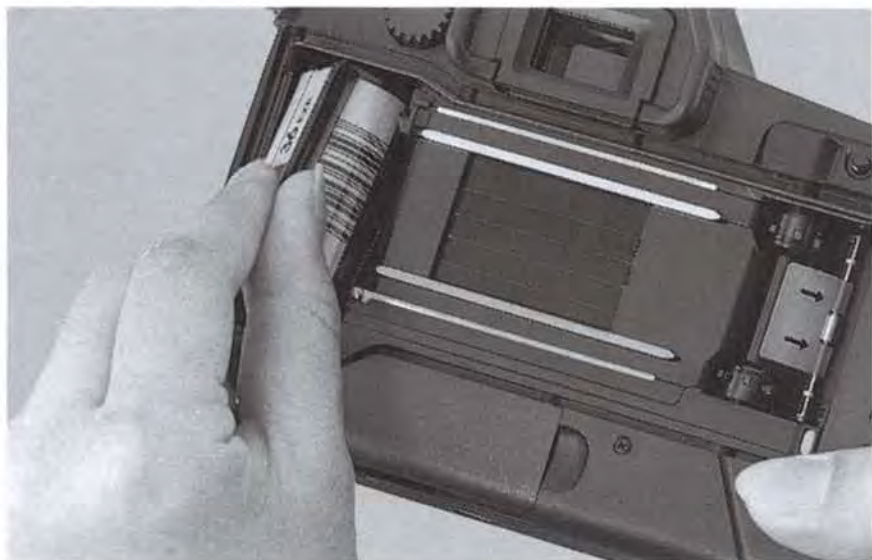


フィルムは終了と同時に巻き戻されます。

1) 自動巻き戻しが始まると、フィルム給送マークが右から左へ動いて巻き戻し中であることを表示します。また、表示パネルのフィルム枚数計も逆算します。

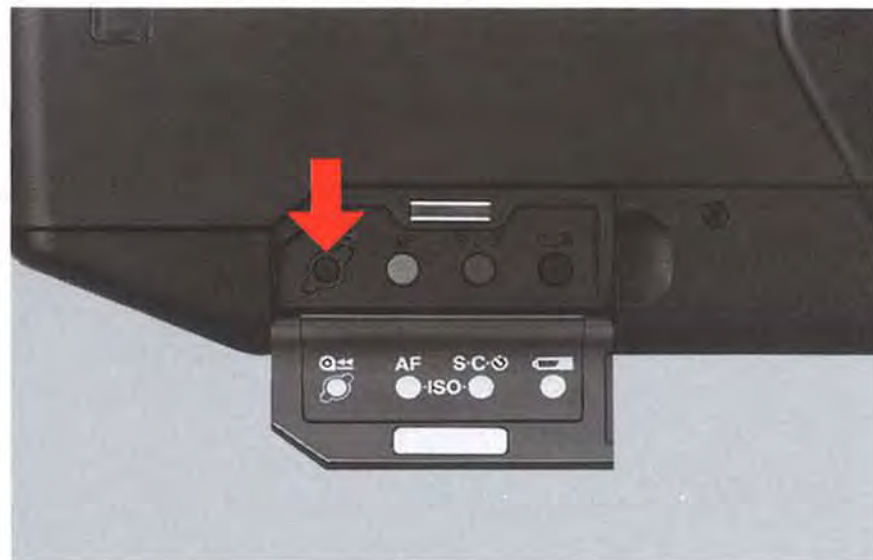


2) 巻き戻しが完了するとカメラは自動的に停止し、表示パネルのフィルム在否確認マーク (◎) が点滅します。



3) 裏蓋を開けてフィルムを取り出します。

〔フィルムの途中巻き戻し〕



フィルムの規定枚数を撮り終える前に巻き戻したいときは、スイッチカバー内の途中巻き戻しボタン(🔄)を押せば、巻き戻しが始まります。

メインスイッチが全自動マークにセットされているときは、電池チェックと途中巻き戻し以外の操作は受けつけない安全機構が働きますので、誤った操作をする心配は全くありません。

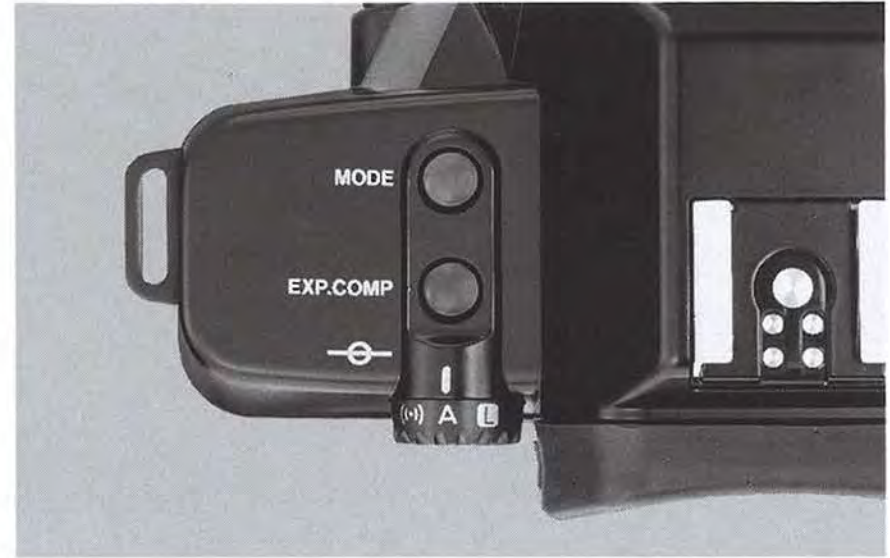
応用撮影編

本編ではカメラの性能を最大限まで引き出し、より幅広い撮影テクニックを駆使していただくための色々な情報が盛り込まれています。「一味違った写真」を撮るために、引き続きお読みください。

1. メインスイッチの機能



メインスイッチ⑮はL, A, (⊏), ⊐の4段式です.
L(OFF) : ロック位置です. カメラを使用しないときは,ここにセットしてください.



A(ON) : 撮影するときのセット位置です. (この位置では電子ブザー音は鳴りません.)



(A) (ON) : “A”と同じ撮影位置ですが、さらに以下の場合には電子ブザー音が鳴ります。

- ①ピントが合ったとき（ピピッという短い音——フォーカス音）
- ②カメラが自動的にセットしたシャッター速度が、手振れしやすい低速になったとき（ピーッピーッという長い音——手振れ警告音）



□(ON) : 全自動位置です。ここにセットすると前のカメラのセット状態がどうであれ、AF（オートフォーカス）は“ONE SHOT”，AE（自動露出）は“P”，フィルムの巻き上げは“S”に自動的にセットされます。また、ピントが合ったときのフォーカス音と手振れ警告音も鳴ります。

□位置では応用編に掲載されているモードはセットできません。Aまたは(A)位置でお使いください。

2. AFモードのセット

このカメラは2つのAFモードと、マニュアル（手動）ピント合わせを備えています。

1. ONE SHOT（ワンショット）AF：

普段の撮影には、ここにセットしてください。一度ピントが合うとレンズの動きが止まります。このときシャッターボタンを軽く押したままにしていれば、ピントも露出も同時にロックされます。また、ピントが合うまでシャッターは切れません。

2. SERVO（サーボ）AF：

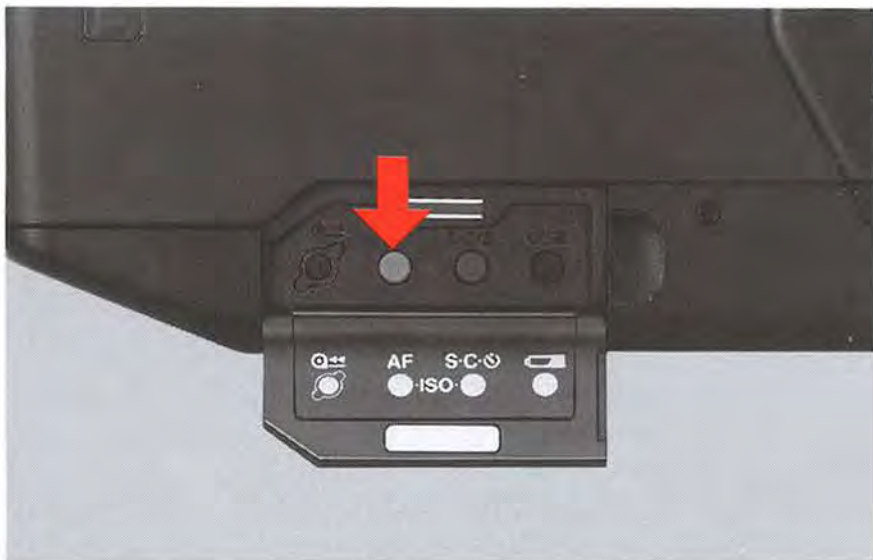
被写体の動きに合わせてAFが追従、つまりレンズが動き続けますので、動いているものを追いかけてながらある一瞬を撮るときに便利です。露出はシャッターを切る瞬間に決まります。なお、シャッターはピントが合う合わないに関係なく、いつでも切れます。

3. MANUAL（マニュアル＝手動ピント合わせ）： P.56をご覧ください。

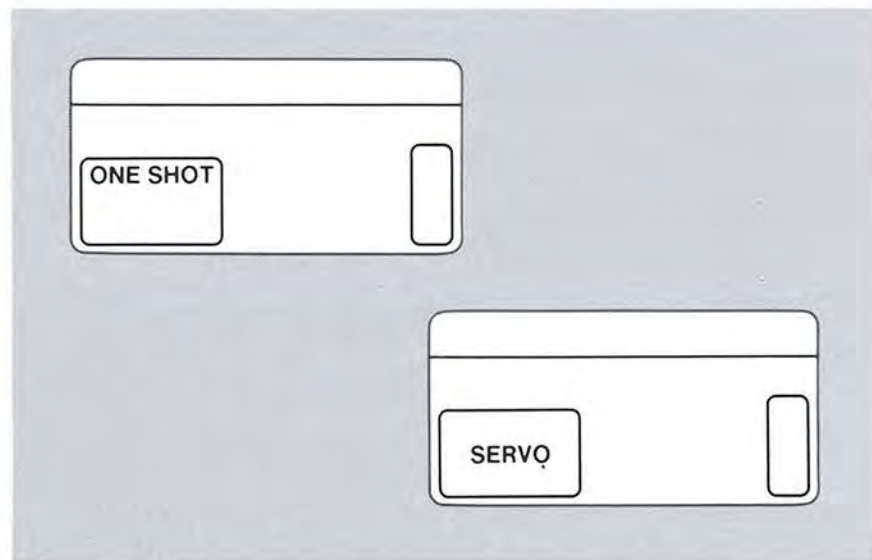


セット方法は以下の通りです。

- 1) レンズのフォーカスモードスイッチ⑨をAFにセットします。



- 2) カメラの裏蓋の下のスイッチカバー②②を開き、AFモード選択ボタン②③（黄色）を押します。
- ・ ボタンを押すと表示パネルはAFモード表示のみになり、指をボタンから離しても約8秒間この状態が保たれます。（8秒のタイマー機能）



- 3) 電子ダイヤル②を回し、ONE SHOT, SERVOのいずれかをセットします。
- ・ 8秒経過後にパネル表示は元の状態に戻ります。8秒以内にタイマー機能を解除したいときは、撮影モード選択ボタンを押してください。

3. フィルム巻き上げモードのセット

このカメラは自動的にフィルムを巻き上げます。
2通りのセットが可能です。

1. S (Single) : 1枚撮り

撮影した後、カメラがフィルムを自動的に1枚巻き上げます。

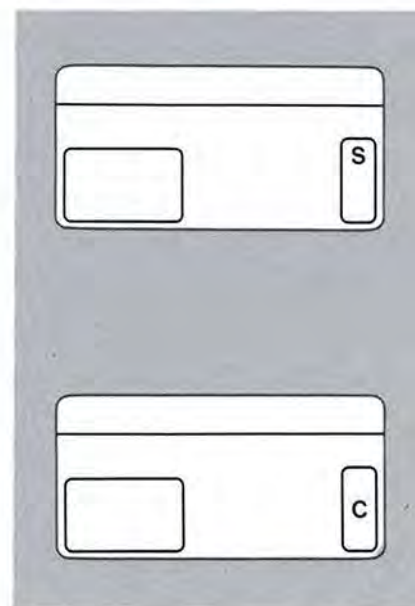
2. C (Continuous) : 連続撮影

シャッターボタンを押し続けると、秒間最高約3コマの速度で、フィルムを連続して巻き上げます。

セット方法は以下の通りです。

1) カメラの裏蓋の下のスイッチカバー⑳を開き、フィルム巻き上げモード選択ボタン(青)㉑を押します。

- ・ボタンを押すと表示パネルはフィルム巻き上げモード表示のみになり、指をボタンから離しても約8秒間この状態が保たれます。(8秒のタイマー機能)



2) 電子ダイヤル㉒を回し、SかCのどちらかをセットします。

- ・8秒経過後にパネル表示は元の状態に戻ります。8秒以内にタイマー機能を解除したいときは、撮影モード選択ボタンを押してください。

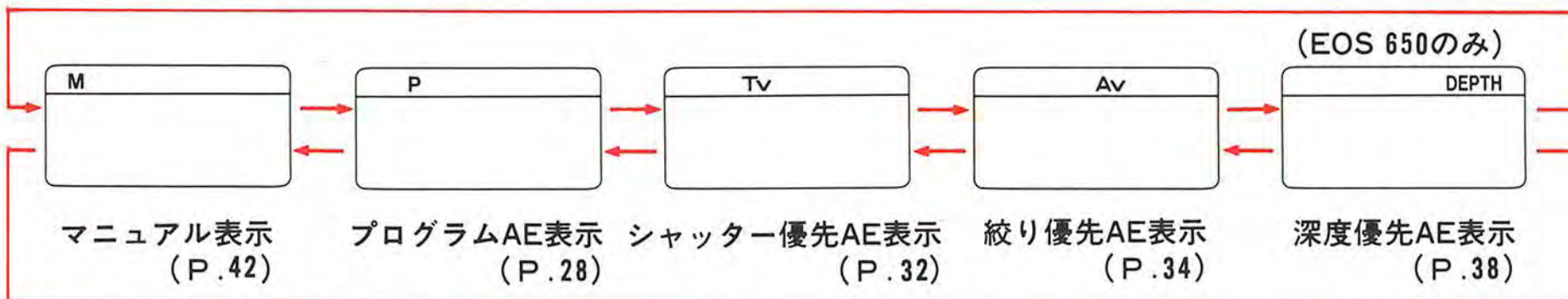
㉑はセルフタイマー位置です。使い方はP.58をご参照ください。

4. 撮影モードのセット

撮影モードは目的に応じて、プログラムAE、シャッター優先AE、絞り優先AE、深度優先AE(EOS 650のみ)、およびマニュアルが選べます。セット方法は以下の通りです。

撮影モード選択ボタン⑮を押しながら電子ダイヤル②を回します。下の図のように表示が循環しますので、まず希望する撮影モードをセットしてください。

- ・軽くシャッターボタンを押すと、指を離してもシャッター速度と絞り値は約8秒間継続して表示されます(8秒のタイマー機能)。途中で解除したいときは撮影モード選択ボタンを押してください。



偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルターPL-Cをお使いください。偏光フィルターを取り付けたままでAF撮影が可能です。直線偏光フィルターをご使用の場合は、手動でピントを合わせてください。(P.56参照)

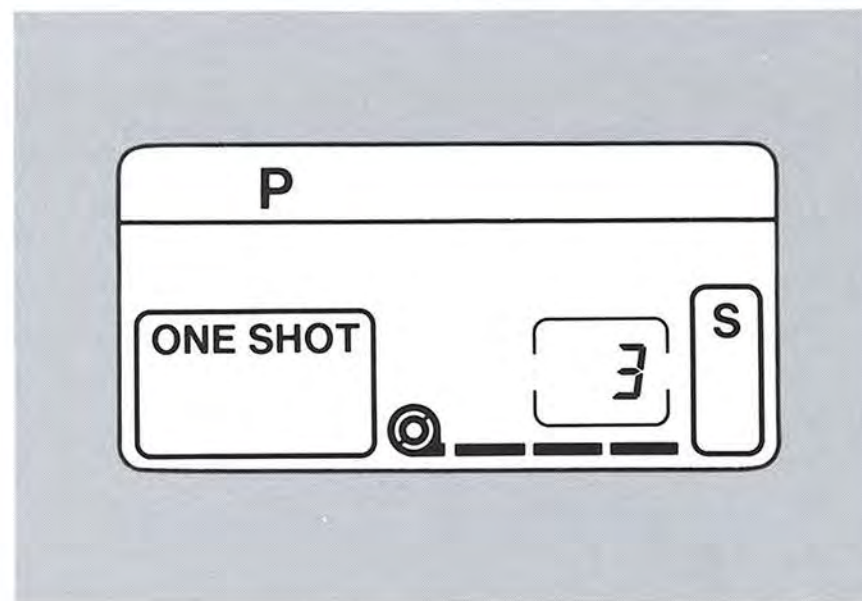
(1)プログラムAE

用途

被写体の明るさに応じて、カメラが自動的にシャッター速度と絞り値をセットします。初めてカメラを手にする方、面倒な操作が苦手な方、一般的なスナップを中心に構図やシャッターチャンスに専念したい方に便利です。

セット

- 1) 撮影モード選択ボタン⑮を押しながら電子ダイヤル②を回し、プログラムAEを表すPを表示パネルに出します。
- 2) 撮影モード選択ボタンから指を離します。これでセット完了です。



露出表示

- ①露出表示が点滅しなければ、露出は適正です。但し、シャッター速度が遅くなり手振れ警告音が出たときは、慎重にシャッターボタンを押して撮影してください。また、三脚を使用するか、フラッシュ撮影に切り換えることをおすすめします。



- ②シャッター速度の30"と使用レンズの開放絞り値が点滅しているときは、露出アンダーになりますので、フラッシュ撮影に切り換えてください。



- ③シャッター速度(EOS 650は2000, EOS 620は4000)と使用レンズの最小絞り値が点滅しているときは、露出オーバーになりますので、NDフィルター(減光用)を使用してください。



- EOS 620/650 は使用レンズの特性（開放および最小絞り値，焦点距離）に合わせて，最適なプログラムを選びます。これをインテリジェントプログラムAEと呼びます。プログラム特性に関しては，P.79～80を参照してください。
- このプログラムAEは，メインスイッチの緑の□マークでセットされるものと全く同じものです。但し，□マークにセットした場合は，自動的にAFがONE SHOT，フィルム巻き上げがS (Single)にセットされますので，SERVOやContinuousをご使用になりたいときは，こちらのPをお使いください。

(2)プログラムシフト機能(EOS620のみ)

用途

プログラムAEによって自動的にセットされるシャッター速度と絞り値は、同じ露出のままでその組み合わせを変えることができます。プログラムAEで撮影中に、突然特定のシャッター速度または特定の絞り値を使って撮影したくなったときに便利です。なお、メインスイッチ¹⁸はAまたは(∞)にセットしてください。(□位置ではプログラムシフトはできません。)

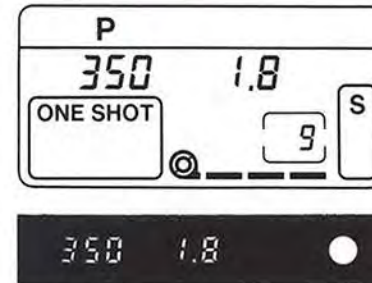
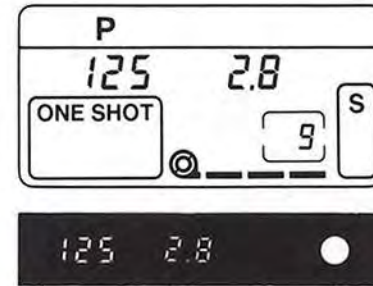


- 1) シャッターボタンを軽く押してピントと露出表示を確認します。
 - 露出表示は約8秒間継続して表示されますので、シャッターボタンから指を離しても構いません。

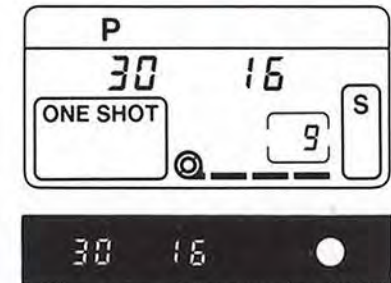


2) 希望するシャッター速度または絞り値が出るまで電子ダイヤル②を回します。

(例) シフト前の表示



高速側にシフト



絞り込む側にシフト

- 撮影後プログラムシフトは自動的に解除され、元のプログラムに戻ります。
- フラッシュ撮影時はプログラムシフトはできません。
- プログラムシフト特性に関しては、P. 81 を参照してください。

(3)シャッター優先AE

用途

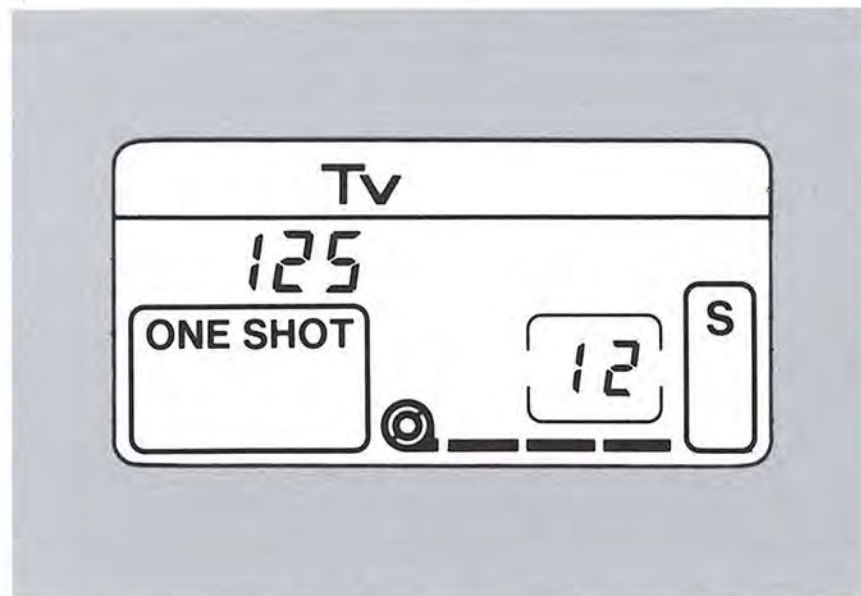
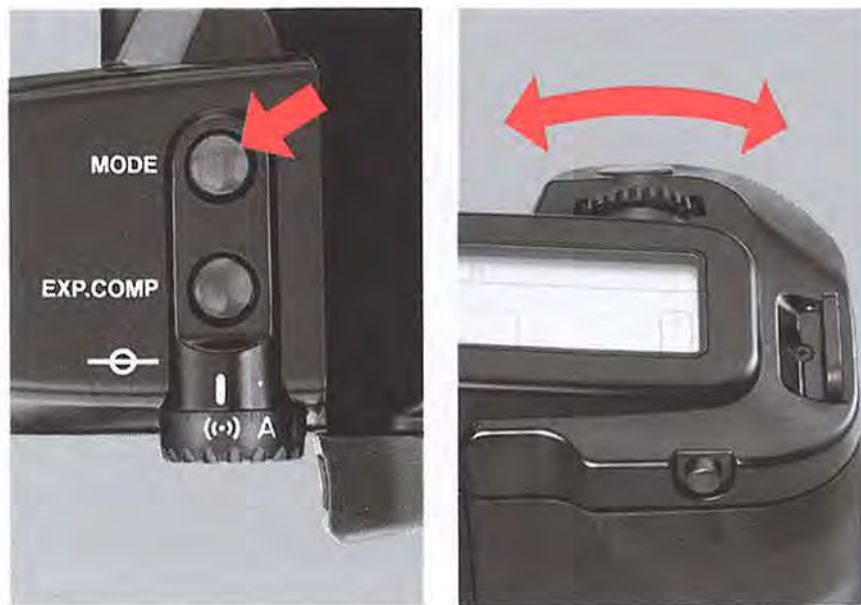
シャッター速度をセットすると、被写体の明るさに応じて適正露出になるように、カメラが自動的に絞り値をセットします。被写体の動きに適したシャッター速度が自由に選べるため、スポーツなど動きのあるものの撮影に便利です。

セット

- 1) 撮影モード選択ボタン⑮を押しながら電子ダイヤル②を回し、シャッター優先AEを表すTvを表示パネルに出します。
- 2) 撮影モード選択ボタンから指を離します。(このとき、1/125秒を表す125が最初に表示されます。)
- 3) 電子ダイヤルを回し、希望するシャッター速度をセットします。
- 4) 軽くシャッターボタンを押すと、そのシャッター速度に応じた絞り値が、表示パネルとファインダー内に出ます。

シャッター速度表示

4000	3000	2000	1500	1000	750	500	350	250	180				
125	90	60	45	30	20	15	10	8	6	4	3	2	0"7
1"	1"5	2"	3"	4"	6"	8"	10"	15"	20"	30"			



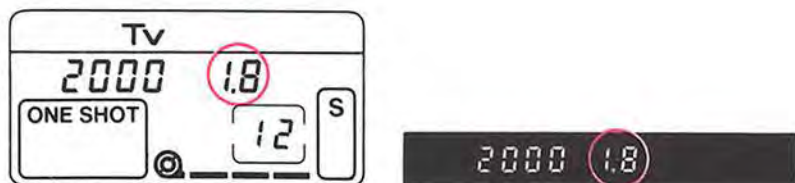
- ・シャッター速度の1/4000秒と1/3000秒はEOS 620のみの機能です。

露出表示

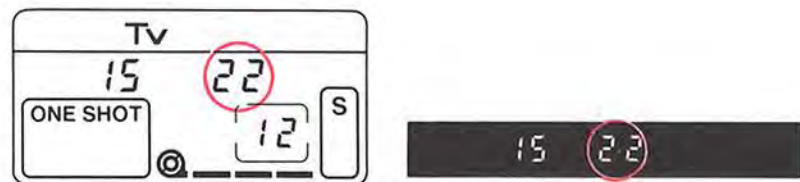
- ① 露出表示が点滅しなければ、露出は適正です。



- ② 露出アンダーになる場合は、使用レンズの開放絞り値が点滅して警告します。その場合は点滅が止まるまで、電子ダイヤルでシャッター速度を遅くしてください。



- ③ 露出オーバーになる場合は、使用レンズの最小絞り値が点滅して警告します。その場合は点滅が止まるまで、電子ダイヤルでシャッター速度を速くしてください。



シャッター優先AE時は手振れ警告の電子ブザー音は鳴りません。

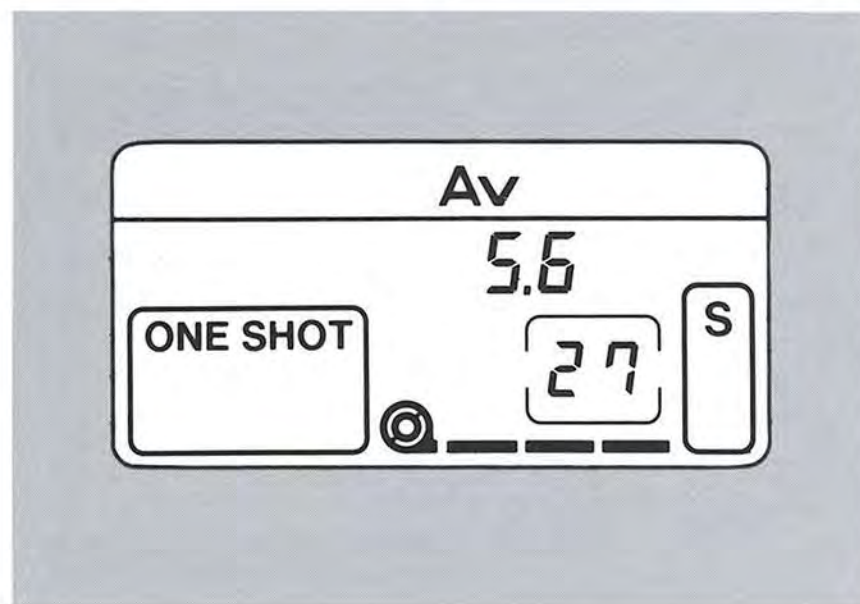
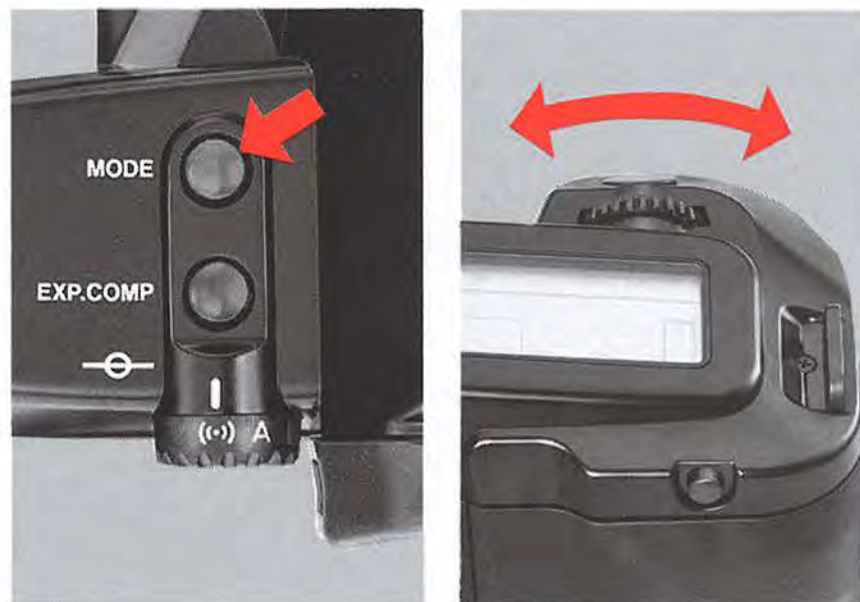
(4)絞り優先AE

用途

シャッター優先AEとは反対に、絞り値をセットすると、被写体の明るさに応じて適正露出になるように、カメラが自動的にシャッター速度をセットします。絞りの効果を生かしたポートレートや風景写真を撮るときに有効です。(P.36参照)

セット

- 1)撮影モード選択ボタン⑬を押しながら電子ダイヤル②を回し、絞り優先AEを表すAvを表示パネルに出します。
- 2)撮影モード選択ボタンから指を離します。(このときF5.6を表す5.6が最初に表示されます。)
- 3)電子ダイヤルを回し、希望する絞り値をセットします。
- 4)軽くシャッターボタンを押すと、その絞り値に応じたシャッター速度が表示パネルとファインダー内に出ます。

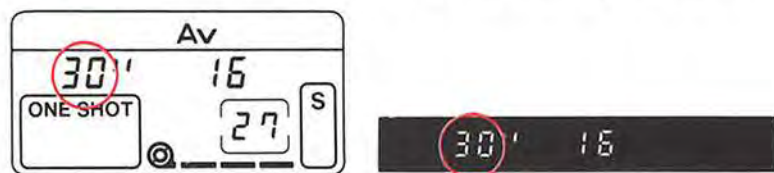


露出表示

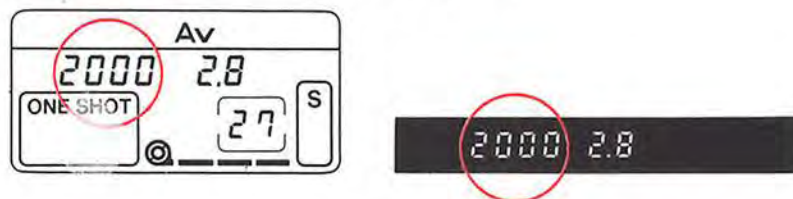
- ① 露出表示が点滅しなければ、露出は適正です。但し、シャッター速度が遅くなり手振れ警告音が出たときは、慎重にシャッターボタンを押して撮影してください。また、できるだけ三脚のご使用をおすすめします。



- ② 露出アンダーになる場合は、シャッター速度の30"が点滅して警告します。その場合は点滅が止まるまで絞りを開いてください。



- ③ 露出オーバーになる場合は、シャッター速度 (EOS 650は2000, EOS 620は4000) が点滅して警告します。その場合は点滅が止まるまで絞りを閉じてください。



〔被写界深度について〕

ある被写体にピントを合わせると、ピントを合わせた被写体だけでなく、その前後のある一定の範囲もはっきり写ります。このはっきり写る範囲を「被写界深度」といいます。被写界深度を有効に使うと、写真のイメージが大きく変わります。

絞りを変えると被写界深度も変わります。はっきり写る範囲が広いことを「深度が深い」といい、その範囲が狭いことを「深度が浅い」といいます。被写界深度には次のような性質があります。

- 1) 絞りを絞り込むほど深くなり、絞りを開くほど浅くなる。
- 2) 同じ絞り値でも、広角レンズは深く望遠レンズは浅い。
- 3) 被写体と撮影者が離れているほど深くなる。
- 4) 被写界深度の範囲は、被写体を中心にして大体手前側が1、後ろ側が2の割合になる。

つまり、例えばポートレート撮影をするときは、背景をぼかして人物を強調しますが、その場合は望遠系のレンズを使って絞りを開き、被写体との距離を近く、さらに背景との距離を遠くすればよいということになります。風景写真など前景から背景までシャープに写したいときは、その逆です。



F1.6



F1.8



〈被写界深度の確認の方法①〉

被写界深度確認ボタン⑧を押すと、カメラが自動的にセットした絞り値または電子ダイヤル②で手動セットした絞り値まで絞り込まれます。このままの状態で見finderをのぞいたときに、はっきり見える範囲がその絞り値での被写界深度です。

メインスイッチが全自動位置（緑色の□マークに）セットされているときは、被写界深度確認ボタンを押し込んでも、レンズは絞り込まれません。



〈被写界深度の確認の方法②〉

レンズの被写界深度目盛りから読み取ります。レンズの指標両側に並んでいる1対の数字が被写界深度目盛りです。被写界深度目盛りは距離目盛りに関連づけて目盛ってありますので、深度範囲を距離目盛り⑥から読み取ることができます。例えば、ある被写体を撮影するとき、絞り値F11撮影距離5mだとします。そのときF11に対応する距離目盛りを読み取ると、約2.7mと約10mとなります。この範囲がはっきり写る範囲です。

レンズには被写界深度目盛りのないものがあります。この場合は①の方法で確認してください。

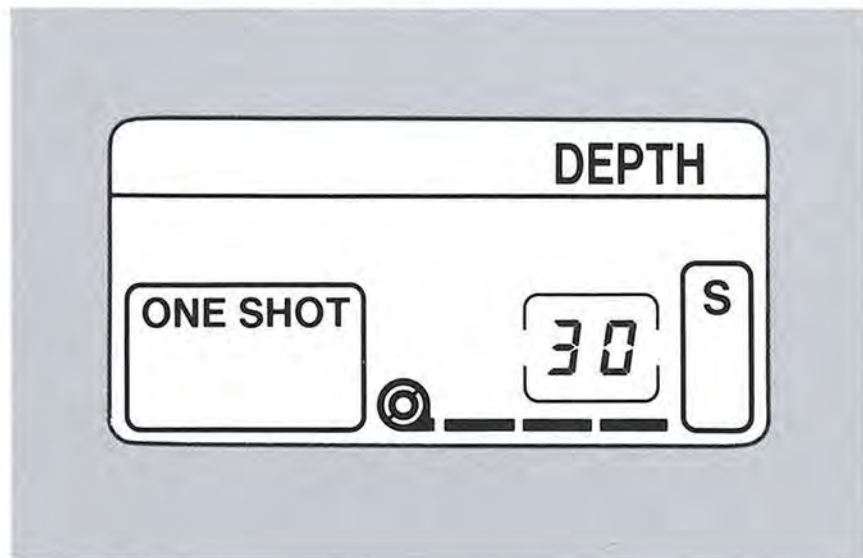
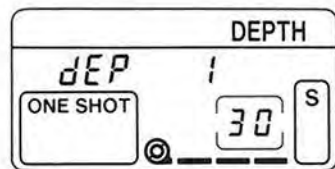
(5) 深度優先AE (EOS 650のみ)

用途

被写界深度とAFを利用して、前方から後方まで「確実」に被写界深度内に入れ、シャープに写すためのAEモードです。前方から後方まで深度内に入れるために必要な絞り値と、それに応じて適正露出になるようにシャッター速度をカメラが自動的にセットします。風景写真や多人数での記念写真、および背景に記念になるようなものを入れて写真を撮りたいときに適しています。

セット

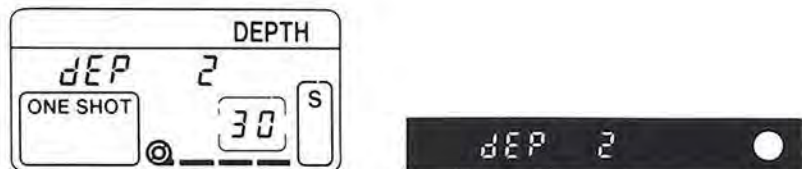
- 1) 撮影モード選択ボタン⑮を押しながら電子ダイヤル②を回し、深度優先AEを表すDEPTHを出します。
- 2) 中央部のAFフレームをⒶの地点（前方）に合わせ、シャッターボタンを軽く押します。(P.39の作例写真参照) フォーカス表示が出たら、シャッターボタンから指を離します。



1 点目 (Ⓐ地点) にピントを合わせたときの表示

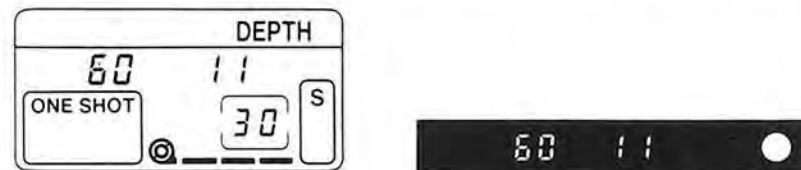


3) 続いて②の地点（後方）で 2)と同様の操作をします。



2 点目（②地点）にピントを合わせたときの表示

4) もう一度シャッターボタンを軽く押します。このとき、①地点から②地点、つまり前方から後方まで深度内に入れるのに必要な絞り値と、それに対応するシャッター速度が表示されます。



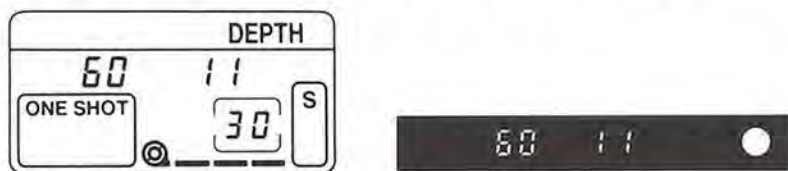
5) シャッターボタンをさらに深く押し撮影します。

• 操作は②(後方), ①(前方)の順で行っても結果は同じです。

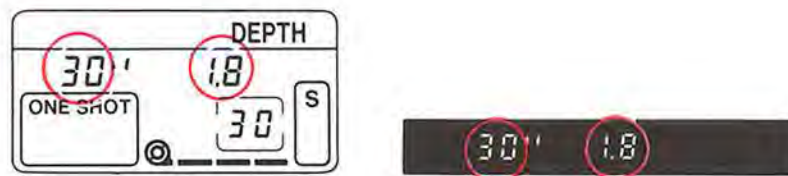
撮影後も 8 秒タイマー機能が働きますので、続けて同じ被写体の深度優先AE撮影が可能です。（深度優先AE撮影を解除するときは、シャッターボタンから指を離し、撮影モード選択ボタンを押してください。）

露出表示

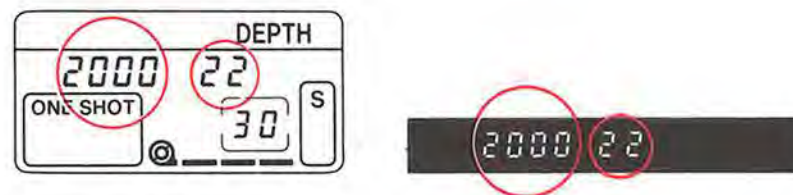
- ①露出表示が点滅しなければ、露出は適正です。
(④の警告は例外)但し、シャッター速度が遅くなり手振れ警告音が出たときは、慎重にシャッターボタンを押して撮影してください。また、できるだけ三脚のご使用をおすすめします。



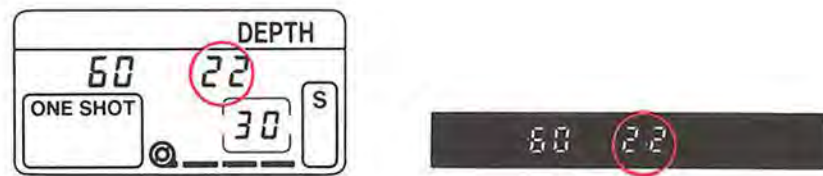
- ②露出アンダーになる場合は、シャッター速度の30"と使用レンズの開放絞り値が点滅して警告をします。



- ③露出オーバーになる場合は、シャッター速度の2000と使用レンズの最小絞り値が点滅して警告をします。NDフィルターを使用してください。



- ④どうしても被写界深度内に入らない場合は、使用レンズの最小絞り値が点滅して警告をします。しかし、写真は適正露出になりますので、撮影しても差し支えありません。(P.41参照)



〔④の撮影ヒント〕

1. 被写体(撮りたいもの)から離れて、再度2)~6)の操作をしてください。使用レンズの最小絞り値の点滅が止まれば被写体は被写界深度内に入り(すべてがシャープに写る)、露出も適正になります。
2. 広角レンズに交換(ズームレンズの場合は広角側を使用)して、再度2)~6)の操作をしてください。使用レンズの最小絞り値の点滅が止まれば被写体は被写界深度内に入り(すべてがシャープに写る)、露出も適正になります。



- ズームレンズ使用時は、1点目のピント合わせをした後に焦点距離を変えないでください。必ず構図・画角を先に決めてください。
- 1点目、2点目とも同じ距離のものにピントを合わせを行うと、被写界深度は浅くなります。例えば人物でこれを行えば、人物の前景および背景をぼかしたポートレート撮影が可能です。その場合は望遠レンズのご使用をおすすめします。
- 被写界深度を深くとりたいときは、広角レンズのご使用をおすすめします。また、望遠レンズでは焦点距離は200mmが限度とお考えください。
- 深度優先AEモードでは、AFモードがONE SHOTでも露出はシャッターを切る瞬間に決まります。(P. 24参照)
- スピードライト420EZまたは300EZなど、ストロボを併用する場合は、深度優先AEは使用できません。
- 深度優先AEモードを操作途中で解除するときは、撮影モード選択ボタンを押してください。

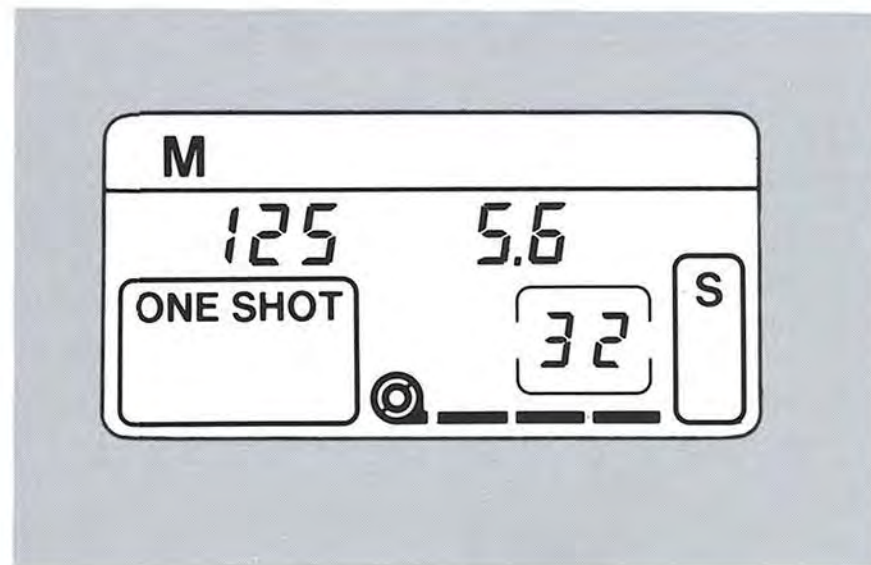
(6)マニュアル (手動露出)

用途

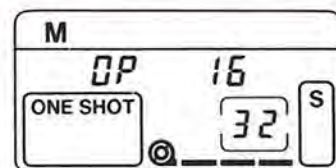
シャッター速度と絞り値を自由に決めて撮影するためのモードです。単独の露出計を用いての撮影や、意識的に露出を変えて撮影するときに使います。

セット

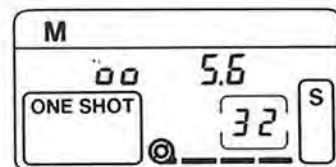
- 1) 撮影モード選択ボタン⑮を押しながら電子ダイヤル②を回し、マニュアルを表すMを表示パネルに出します。
- 2) 撮影モード選択ボタンから指を離します。このとき、シャッター速度は1/125秒、絞り値はF5.6が最初に表示されます。



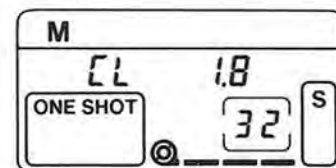
- 3) 電子ダイヤルを回し、希望するシャッター速度をセットします。
- 4) 手動絞りセットボタン⑦を押しながら電子ダイヤルを回し、希望する絞り値をセットします。
 - ・このとき、表示パネル上とファインダー内のシャッター速度表示は *OP*、*oo*、*[L* のいずれかに切り換わります。意味は右の通りです。
- 5) 表示されたシャッター速度と絞り値を参考に、露出を決めてください。



露出アンダーです。絞りを開いてください。(OPENの意味)



適正露出です。



露出オーバーです。絞りを閉じてください。(CLOSEの意味)



絞りを開放まで開いても、まだ *OP* が表示されているときは、シャッタースピードを遅くしてください。逆に、最小絞り値まで絞っても、まだ *[L* が表示されているときは、シャッタースピードを速くしてください。

マニュアル撮影時は手振れ警告の電子ブザー音は鳴りません。

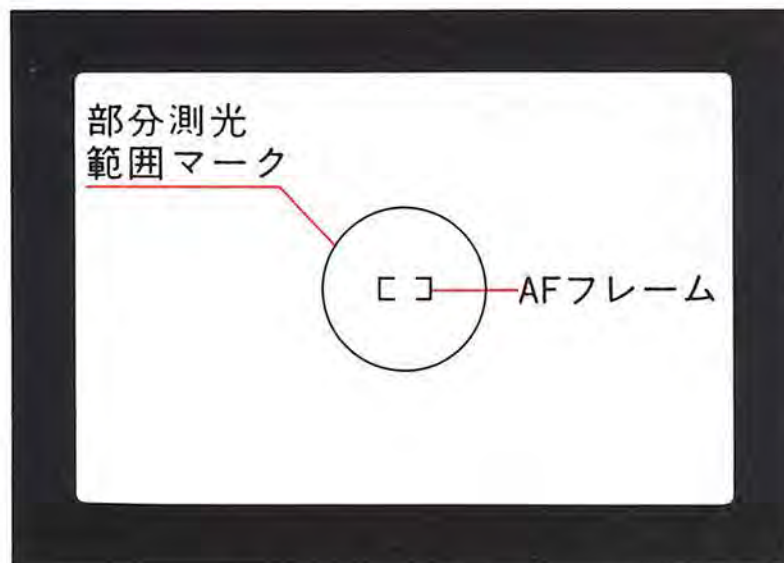
5. 部分測光(AEロック)

このカメラは評価測光を備えていますので、逆光など複雑な光の状況でもほとんどの場合、適正露出の写真が得られます(P.18参照)。

しかし、舞台撮影など極端に光の明暗差がある場合や、自分で意識的に露出をコントロールしたい場合は、部分測光を使用してください。部分測光使用時は自動的にAEロックがかかります。

AEロック：

カメラが露出の値を記憶しているので、カメラの位置を動かしても光の変化に左右されずに、そのままの露出で撮影することができます。



- 1) 部分測光範囲マーク (ファインダー画面の約6.5%)を主要な被写体に合わせ、軽くシャッターボタンを押します。

部分測光 (AEロック) は全自動位置(P.14)をのぞくすべての撮影モードと併用することができます。



2) シャッターボタンを軽く押したまま、部分測光ボタン②⑤を押します。

- マニュアル（手動露出）撮影時は、手動絞りセットボタン⑦を押しながら部分測光ボタンを押してください。
- このときファインダー内には、部分測光状態を示す✳が表示されます（AEロック）。
- 部分測光ボタンを押していれば、シャッターボタンから指を離しても構いません。

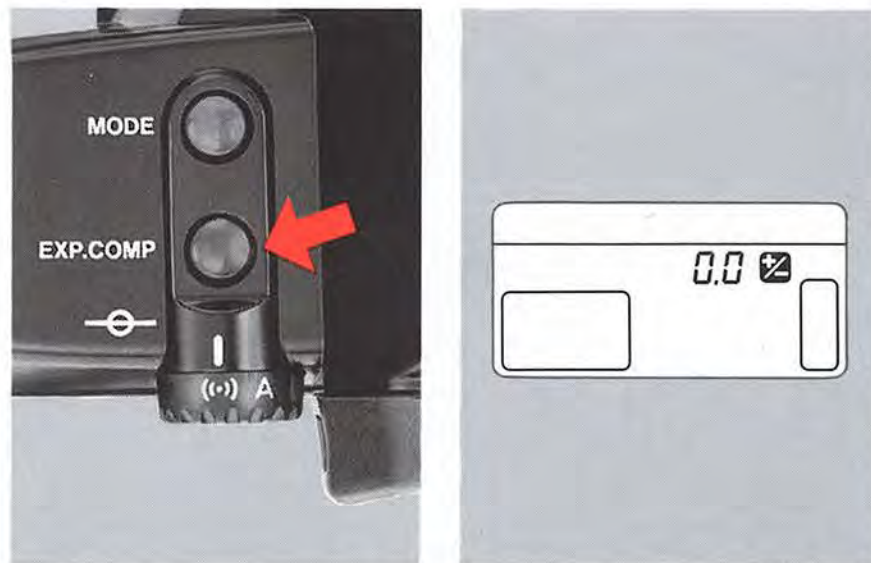



3) 構図を自由に決め、撮影します。

- 撮影後にシャッターボタンを軽く押したまま（測光状態）にしていれば、最初にAEロックした露出で連続撮影をすることができます。

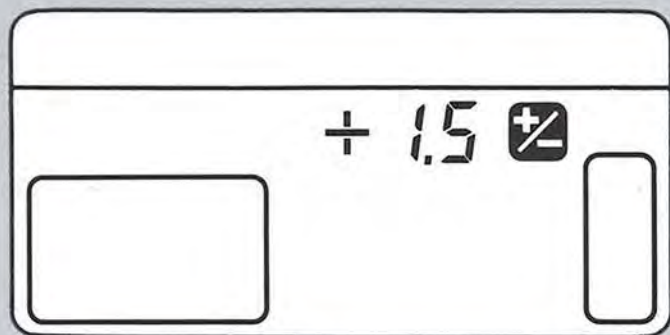
6. 露出補正

写真の画面全体を意識的に露出オーバー（ハイキー調）にしたり，露出アンダー（ローキー調）にするときなどに主に使用します。補正範囲は+5.0～-5.0段で1/2段ずつセットできます。



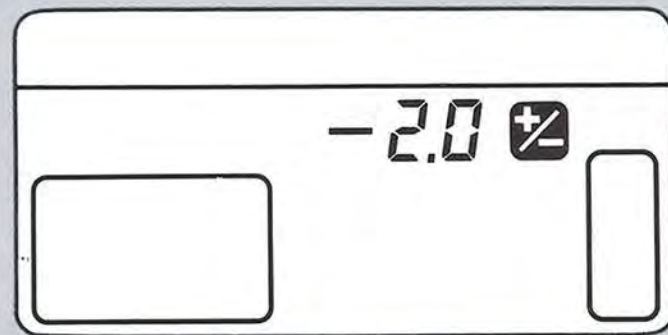
1) 露出補正ボタン⑩を押すと，表示パネルに0.0  が出ます。

- +はオーバー側への補正，-はアンダー側への補正です。
- 露出補正は撮影モード，測光モードにかかわらず使用できます。(但し，全自動位置(P.14)はのぞく.)



露出オーバー側に1.5段補正

- 2) 露出補正ボタン⑩を押しながら電子ダイヤル②を回し、希望する補正量をセットします。
- 3) 露出補正ボタンから指を離します。これでセット完了です。



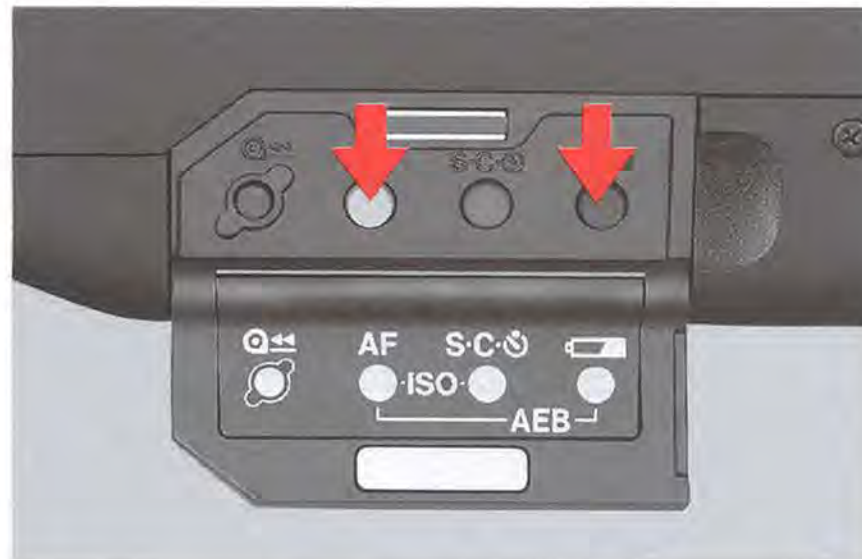
露出アンダー側に2.0段補正

- このとき表示パネルと、ファインダー内に \square が表示され、露出補正状態にあることを示します。

- 補正量を決めにくいときは、前後に補正数値を変えて撮影してください。
- 撮影終了後は露出補正量を必ず0.0 \square に戻してください。

7. オートブラケティング——露出をずらす(EOS 620のみ)

画面内に微妙な明るさの差があるなど、適正露出を決めにくいときに使用します。カメラが自動的に露出をずらして3枚撮影しますので、後からご自分の判断で最も良い露出の写真を選んでください。セット範囲は5段までで、1/2段ずつセットできます。

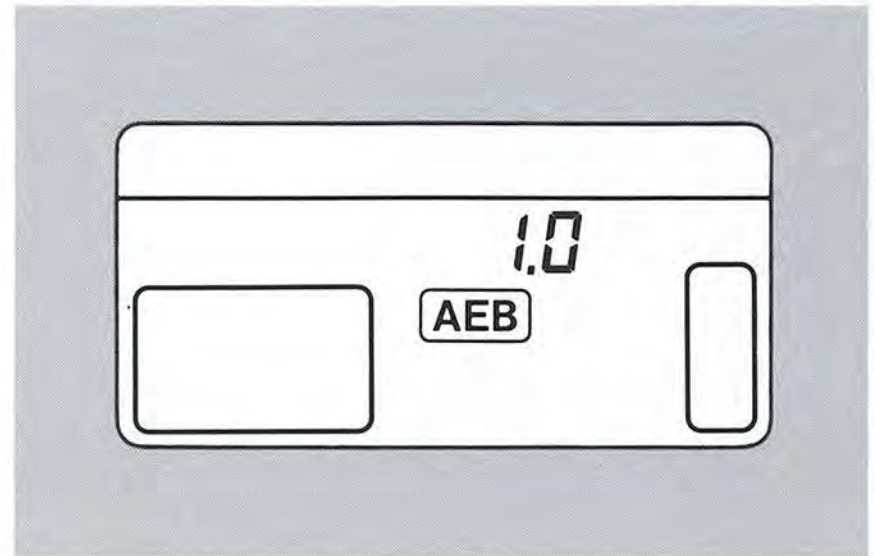


- 1) カメラの裏蓋の下のスイッチカバーを開き、AFモード選択ボタン⑳と電池チェックボタン㉑を同時に押します。
 - ・このとき表示パネルには0.0 **AEB** が表示されます。また、約8秒のタイマー機能が働きますので、両方のボタンから指を離しても構いません。8秒経過後にパネル表示は元の状態に戻りますが、それより先にタイマー機能を解除したいときは、撮影モード選択モードボタンを押してください。



2) 電子ダイヤル②を回し，希望する露出のずらし量をセットします。

- 例えば1.0をセットすると，カメラは露出アンダー(-1.0段)，カメラの露出計の判断による適正(±0段)，露出オーバー(+1.0段)の順で3枚自動的に撮影します。
- 撮影中は表示パネルに **AEB** が表示されます。
- 撮影後オートブラケットング状態は自動的に解除されます。



- 3枚の自動撮影はフィルムの巻き上げモードに関係なく行われます。またピントは最初の撮影位置でロックされます。
- 撮影前ならばオートブラケットングの解除は可能です。1)の説明にしたがい，パネル表示を0.0 **AEB** に戻してください。
- バルブ (P. 63参照) とフラッシュ撮影には併用できません。



-1.0段



±0段



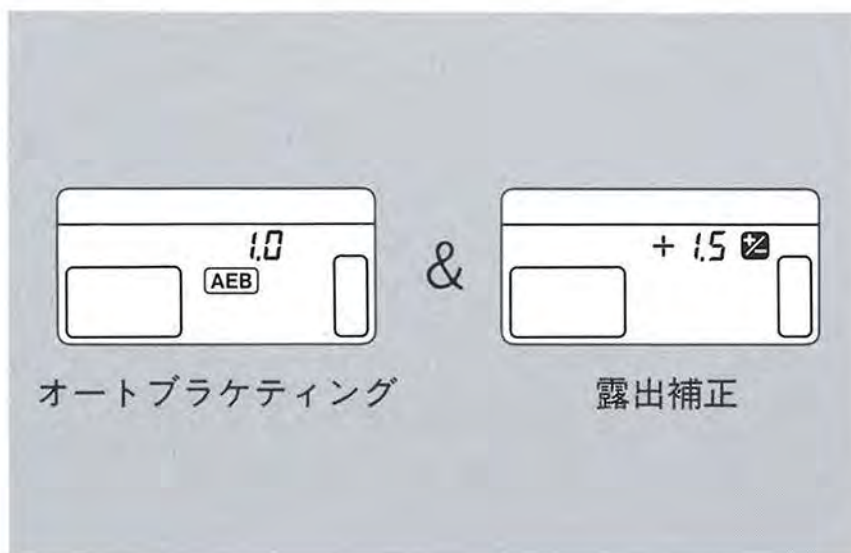
+1.0段

[撮影ヒント]

1. 例えば露出オーバー側にのみ露出をずらしたいときは、露出補正機構を併用してください。(P.46 参照)
 - 1) オートブラケティングで露出のずらし量を 1.0 にセットします。(-1.0, ±0, +1.0)
 - 2) 露出補正で補正量を +1.5 にセットします。

結果として露出のずらし量は +0.5, +1.5, +2.5 となり、オーバー側にのみ露出をずらしたことになります。

2. 別売のテクニカルバック E を併用すれば、1/4 段ずつ連続 9 枚までのオートブラケティング撮影ができます。



8. 多重露出 (EOS 620のみ)

EOS 620の多重露出機構を使用すれば、同一フィルム面上に何回でも画面を重ねて撮影することができます。撮影予定回数は1度の電子ダイヤル操作で9回までセットすることができます。



- 1) 撮影モード選択ボタン⑮と露出補正ボタン⑯を同時に押します。
 - ・このとき表示パネルには **ME** が表示され、フィルム枚数計（この場合は、露出回数を表します。）は1になります。
- 2) 両方のボタンを押したまま電子ダイヤルを回し多重露出回数（3回の多重露出なら3）をセットします。



- ・撮影中は **ME** が点滅し、多重露出状態であることを知らせます。
- ・多重露出が終了するとフィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ、多重露出は解除されます。
- ・多重露出を撮影前に解除するときは、1)と2)の説明にしたがいフィルム枚数計を1に戻してください。(撮影途中で解除するときはフィルム枚数計をブランクにします。)

[撮影ヒント]

多重露出はフィルムの同一画面上に何度も露出を与えますので、露出値を最初に補正しておく必要があります。露出補正機構を併用してください。(P.46~47参照)

補正の目安

多重露出の回数	補正量のセット
2回	-1.0
3回	-1.5
4回	-2.0

この補正量はあくまでも一般的な目安です。実際は条件によって変わりますので、繰り返し練習してみることをおすすめします。

多重露出をしてもフィルムは動かないよう考慮されていますが、多重回数が増えた場合は、画面がわずかにずれることがあります。またフィルムの最初と最後の数コマは巻きぐせがありますので、避けた方が無難です。

一般に多重露出は背景が黒っぽいものから撮影し、黒の部分に次の被写体を重ねてゆきます。

ネガフィルムで多重露出をした場合は、現像(同時プリント)時にその旨をお申し出ください。そうでないとプリントされないことがあります。

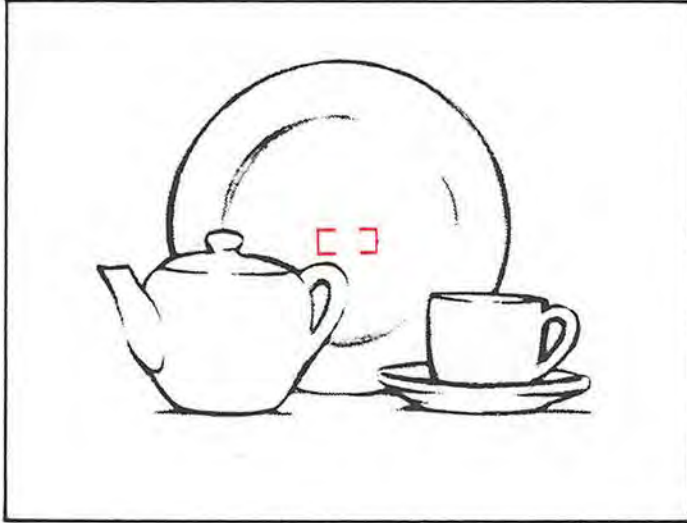
9. AFの苦手な被写体(手動ピント合わせ)

このカメラのAFシステムは、ほとんどの被写体に対してピント合わせが可能な、非常に精度の高いものです。しかし次の表のような特殊な被写体に対しては、ピント合わせができないこと（緑のフォーカス表示が点滅）があります。

	被 写 体
AF測距ができないもの または誤測距するもの	コントラスト（明暗差）が極端に低い被写体……………(A) 非常に暗い所の被写体……………(B) ブラインドなど縦線のない被写体……………(C) 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体……………(D) 遠くと近くに共存する被写体……………(E) 高速で移動するなど、安定測距のできない被写体……………(F)

AF測距：オートフォーカスでピント合わせをすること

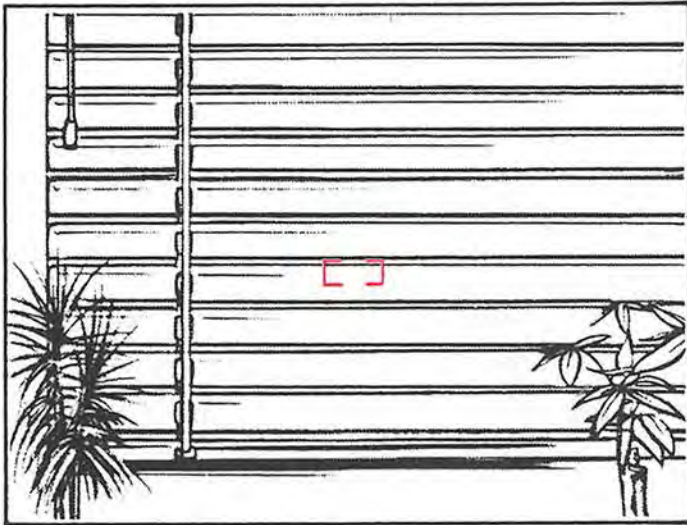
(A)



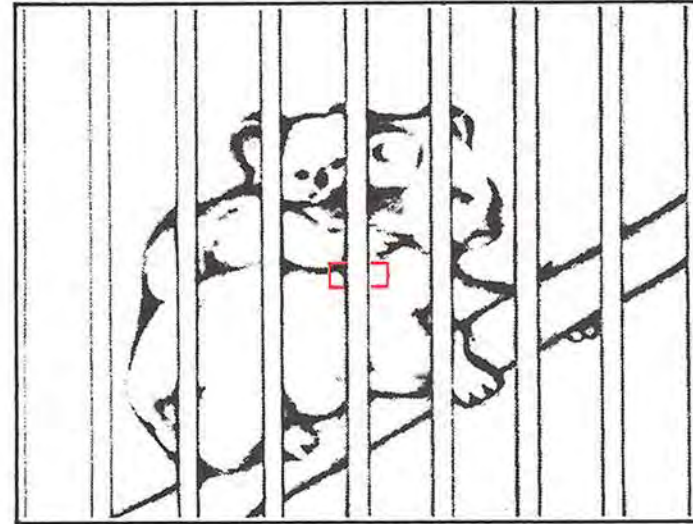
(B)



(C)



(E)

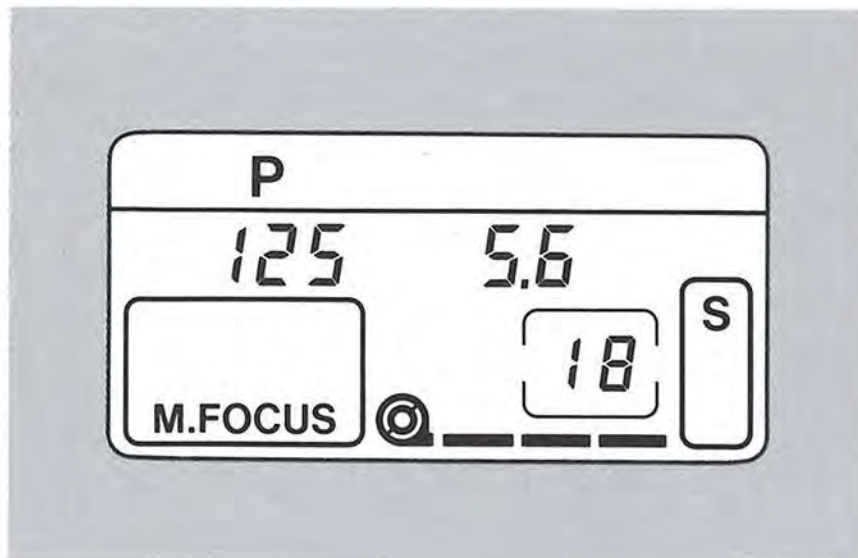


これらの被写体は、次のいずれかの方法でピントを合わせることができます。

- ①特に(A)のような場合は、被写体とほぼ同じ距離にあるものでAF測距をし、構図を決め直して撮影する。
- ②特に(C)のような場合は、カメラを縦に構えてAF測距をし、構図を決め直して撮影する。
- ③レンズのフォーカスモードスイッチをM（マニュアル）にして、手動でピント合わせをする。

〔手動ピント合わせ〕

- 1)レンズのフォーカスモードスイッチ⑨をM（マニュアル：手動）にセットします。
 - ・このとき表示パネルのAFモード表示も、自動的にM. FOCUSに切り換わります。
- 2)レンズの手動フォーカスリング⑩を回して、ピントを合わせます。マツト面で画面全体のぼけがなくなり、像がはっきり見えればピントの合った状態です。



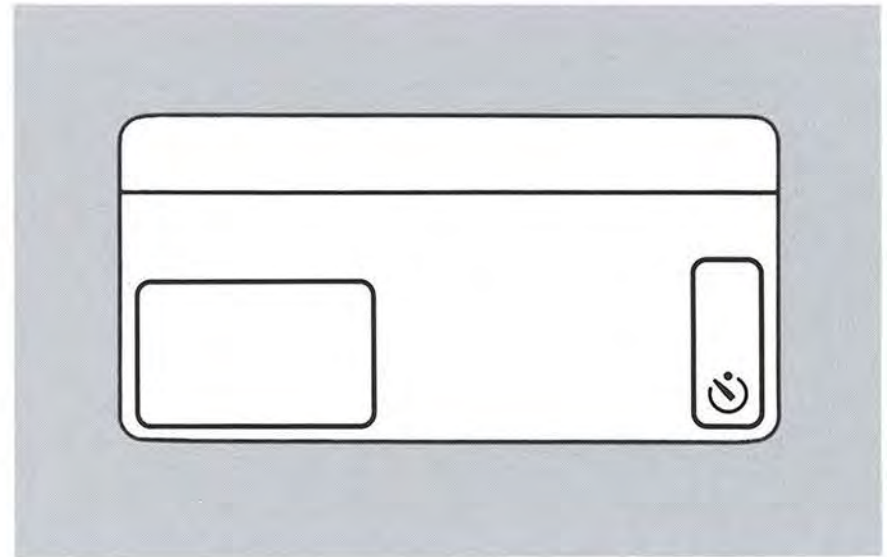
その他の撮影

1. セルフタイマー撮影



自分自身を含めた記念撮影をするときなどに使用します。三脚などを利用してカメラを固定してください。撮影はシャッターボタンを押してから約10秒後に行われます。

1) メインスイッチ⑱をAまたは(∞)に合わせます。
(P.23参照)



2) カメラの裏蓋の下にあるスイッチカバー⑳を開き、フィルム巻き上げモードをセルフタイマー位置に合わせます。(P.26参照)

3)軽くシャッターボタンを押してピントを合わせます。

4)ピントと露出を確認して、シャッターボタンを深く押します。AFモードはどちらでも構いません。

- セルフタイマー作動表示ランプ⑤が点滅を始め、セルフタイマーが作動中であることを知らせます。ランプの点滅は約10秒間ですが、撮影2秒前になると点滅が速くなります。

- セルフタイマー撮影を途中で止めたいときは、電池チェックボタン⑩を押してください。
- カメラの前に立ってシャッターボタンを押さないでください。



ファインダーから目を離してシャッターボタンを押すときは、逆入光を防止するためにストラップ肩当てからファインダーカバーを外して、図のように接眼部に取り付けてください。





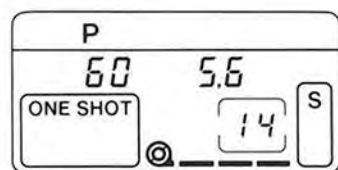
(1)専用スピードライトによる撮影

専用スピードライト420EZまたは300EZをお使いになれば、暗い場所だけでなく日中シンクロまで、簡単な操作でフラッシュ撮影ができます。また、暗い場所ではAF測距用の補助光により、AFフラッシュ撮影も可能です。

日中シンクロ：

日中でフラッシュを使う撮影方法です。逆光で人物の顔などが暗くつぶれるのを避けるために用います。このときに人物の露出と背景の露出を同じにすることを日中シンクロと呼びます。日中シンクロは経験を必要とする高度な撮影テクニックとされていますが、スピードライト420EZまたは300EZをご使用になれば、すべて自動的に行うことができます。

カメラをプログラムAEにセットしておけば、フラッシュの充電完了と同時に同調シャッター速度はEOS650の場合は1/60～1/125秒の範囲内で、またEOS620の場合は1/60～1/250秒の範囲内で自動セットされます。さらに調光絞り値も両機種とも自動セットされます。



同調シャッター速度 充電完了マーク

調光絞り値



詳しくはスピードライトの使用書をご覧ください。

(2) その他のキヤノンスピードライト

以下のような手順で撮影してください。調光撮影となります。

- 1) カメラの撮影モードを“M”にセットします。
- 2) 同調シャッター速度をEOS 650の場合は30秒～1/125秒の範囲で、またEOS 620の場合は30秒～1/250秒の範囲でセットします。
 - ・ 1/125秒 (EOS 650) または1/250秒 (EOS 620) より速い同調速度をセットした場合は、自動的に1/125秒 (EOS 650), 1/250秒 (EOS 620) にセットされます。
- 3) ストロボに調光絞り値をセットします。
- 4) ストロボの調光絞り値と同じ絞り値をカメラにセットします。

- ・ 300TL使用時はストロボのモードセットボタンをMHi, MLo以外にセットして撮影してください。TTL調光が行われます。
- ・ 277T, 299Tのプログラムモードは使用できません。F.NO.セットモードでお使いください。
- ・ 244TおよびT90用の多灯アクセサリは使用できません。

(3) 汎用ストロボ

- ① 汎用小型ストロボは1/125秒以下 (EOS 650) または1/250秒以下 (EOS 620) で同調可能。
- ② スタジオ用大型ストロボは1/60秒以下 (EOS 650) または1/125秒以下 (EOS 620) で同調可能。

汎用ストロボをご使用の場合は、ストロボの発光時間との関係で正しく同調するかどうかを、あらかじめ確認してください。

スタジオ用大型ストロボを使用する場合の接続は、キヤノンホットシューアダプターをご使用ください。コード接続式の汎用ストロボの場合も同様です。

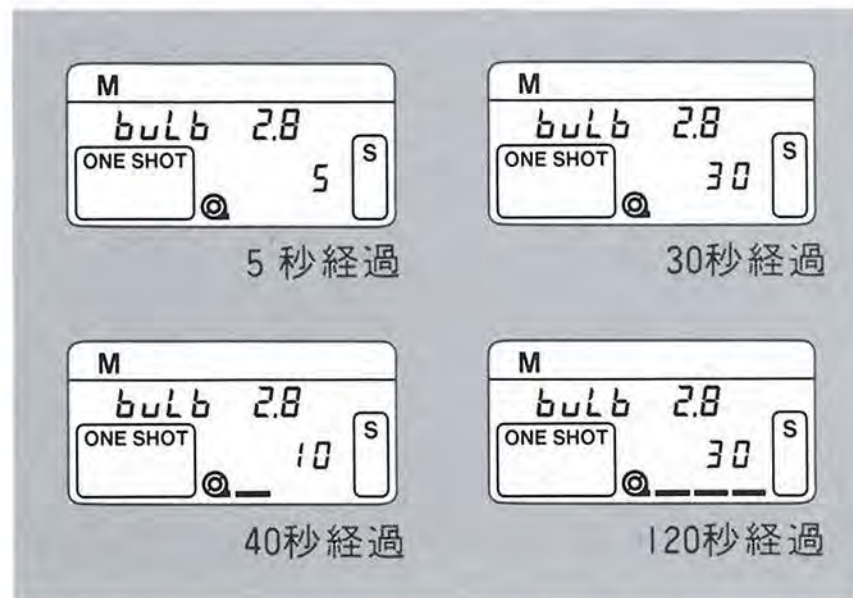
このカメラにはキヤノンの専用ストロボを使用されることをおすすめします。特に他社の特定のカメラ専用とされているストロボ（一般にホットシューに複数の接点を持つ）およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常機能を発揮しないことや、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

3. バルブ(長時間露出)撮影

シャッターボタンを押している間シャッターが開いたままになりますので、夜景や天体撮影など長時間の露出が必要なときに使用します。

- 1) 撮影モードをM (マニュアル) にセットします。
- 2) 電子ダイヤル②を回してbuLbをセットします。(30"の次がbuLbです。)
- 3) 手動絞りセットボタン⑦を押しながら電子ダイヤルを回し、希望する絞り値をセットします。

- バルブ撮影時は、ほとんど電池消耗のない省電設計です。
- 120秒まではバルブ作動時間が表示パネル上で確認できます。フィルム給送マーク1本が30秒を表します。
- 別売のリモートスイッチ60T3とリモートコントロール端子付きの交換グリップGR20(EOS 620には標準装備)を併せてご使用になると便利です。
- バルブ撮影時の警告はありません。



4. 赤外写真撮影



赤外マークは、白黒赤外フィルムを使用するときのマークです。赤外フィルム撮影では通常の撮影とピント位置が異なってきますので次のようにしてください。

- 1) AFでピントを合わせます。次にレンズのフォーカスモードスイッチをMに切り換えます。
- 2) ピント合わせの結果が5 mならば、レンズの距離目盛りの5を赤外マーク位置にずらします。
- 3) これで撮影します。なお、白黒赤外フィルム撮影のときは、赤フィルターを併用します。



- レンズの赤外マークは800nmの波長を基準に目盛ってありますが、一般の白黒赤外フィルムの波長は種類によって異なりますので（750～830 nm）、撮影の際は赤外マークを中心にして何枚か撮影することをおすすめします。

詳しいことやカラー赤外フィルムについては、フィルムの使用説明書に従ってください。



スピードライト420EZ/300EZ

暗い所から日中シンクロまで完全自動対応する高性能ストロボです。TTL調光撮影の方式はフィルム面からの反射を利用するダイレクト測光方式ですが、日中シンクロ撮影のときなどは主被写体と背景の露出のバランスに不自然さが生じないように調光を行う、キヤノン独自のA-(Advanced)TTL方式を採用しています。また、使用レンズの焦点距離に合わせてフラッシュ内部で照射範囲を調節するオートズーム機能、ほんのわずかな充電時間で撮影できるクイック発光など様々な機能が盛り込まれています。ガイドナンバーは420EZが35、300EZは28(ともにISO100・m、照射範囲50mm位置にセット時)です。



EFレンズ

一眼レフカメラの最大の特長は、レンズを交換することによって自由な映像表現ができることです。EOSカメラ専用開発されたEFレンズはどんな撮影場面にも対応できる13種類と、300mmレンズを600mmの焦点距離にするエクステンダーの豊富なバリエーション。また、各レンズの特性に合った専用モーターをレンズ内に配置しているので、望遠レンズ使用時でも正確で迅速なAFピント合わせが可能です。

〔撮影ヒント〕

最も大切なポイントは「自分は何を撮りたいのか」という目的をはっきり持つことといえます。例えばポートレート撮影ならば中望遠、スポーツならば望遠、風景ならば広角・望遠両方というようにレンズの選択をするのが理想的です。しかし、もしあなたが何でも撮ってみたいという漠然派ならばズームレンズをおすすめします。ズームレンズなら1本で数本分の焦点距離をカバーでき携帯性にも優れていますので、普通のスナップから旅行したときの風景、スポーツ撮影までこなすことができます。



レ ン ズ	構成枚数	画 角	最小絞り	距離目盛(m)	フィルター径	長さ×最大径(mm)	重量(g)
フィッシュアイEF15mmF2.8	7群8枚	180°	22	0.2~1.0∞	はさみ込み	62.2×73.0	360
EF28mmF2.8	5群5枚	75°	22	0.3~2.0∞	52	42.5×67.4	185
★ EF50mmF1.0L (ウルトラソニック)	9群11枚	46°	16	0.6~10.0∞	72	80.0×89.0	960
EF50mmF1.8	5群6枚	46°	22	0.45~5.0∞	52	42.5×67.4	190
★ ソフトフォーカスEF135mmF2.8	6群7枚	18°	32	1.3~10.0∞	52	98.7×69.2	410
★ EF300mmF2.8L (ウルトラソニック)	7群9枚	8°15′	32	10~100.0∞	48	243.0×125.0	2,850
★ EF28-70mmF3.5-4.5	9群10枚	75°~34°	22~29	0.5~5.0∞	52	74.8×70.0	300
★ EF28-80mmF2.8-4L (ウルトラソニック)	12群16枚	75°~30°	22~32	0.75~5.0∞	72	122.0×83.0	940
EF35-70mmF3.5-4.5	8群9枚	63°~34°	22~29	0.5~7.0∞	52	63.0×70.0	245
EF35-105mmF3.5-4.5	11群14枚	63°~23°30′	22~29	1.2~7.0∞	58	81.9×73.2	400
EF70-210mmF4	8群11枚	34°~11°45′	32	1.5~20.0∞	58	137.6×75.6	650
★ EF100-300mmF5.6	9群15枚	24°~8°15′	32	2~15.0∞	58	166.8×75.0	720
★ EF100-300mmF5.6L	10群15枚	24°~8°15′	32	2~15.0∞	58	166.6×75.0	720
★ エクステンダーEF2X	5群7枚	—	—	—	—	50.5×67.6	290

エクステンダーEF2XはEF300mmF2.8L専用です。

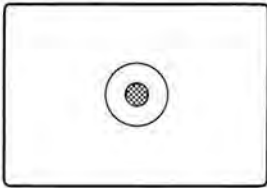
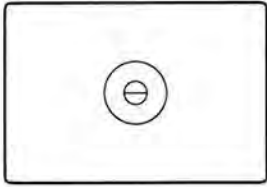
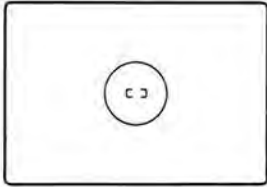
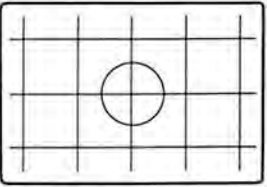
ズームレンズにはマクロ機構が付いています。

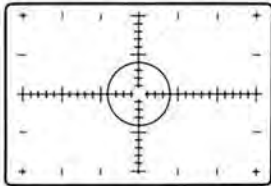
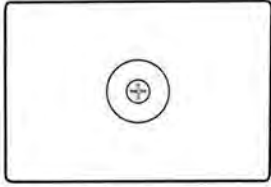
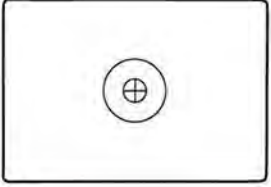
★印は近日発売です。

交換フォーカシングスクリーン(EOSカメラ専用)

EOS 620/650のフォーカシングスクリーンはAFフレーム付き全面レーザーマット(Cタイプ)が標準装備されていますが、撮影用途の違いによる便宜

を図るため他に6種類の交換用フォーカシングスクリーンが用意されています。

名 称	用途・特徴
A.標準マイクロ 	一般，全レンズに使用可能。F5.6より暗いレンズおよび接写ではマイクロプリズムにカゲリを生ずる。
B.ニュースプリット 	一般，全レンズに使用可能。
C.AFフレーム付き全面レーザーマット 	一般，全レンズに使用可能。
D.方眼レーザーマット 	一般，全レンズに使用可能。目盛線があるため建築写真の構図決定に便利。また，複写にも有効。

H.目盛線入りレーザーマット		全レンズに使用可能。目盛線が中央および周辺にあるため、撮影倍率や構図決定に便利。接写、拡大撮影に有効。
I.十字線入りレーザーマット		中央十字線部空中像と十字線でピント合わせ可能。眼を左右に振ったときに、素通し部の像が十字線に対して動かなければ合焦。天体写真撮影などに有効。
L.クロススプリット		縦横両方向の線を使用してピント合わせ可能。F5.6より暗いレンズおよび接写はスプリット部にカゲリを生ずる。

フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられていますので、絶対に手で触れないでください。交換の際はフォーカシングスクリーン付属の専用チェンジャーをお使いください。なお、実際の交換方法はフォーカシングスクリーンの使用説明書をご覧ください。

これらのフォーカシングスクリーンはEOSカメラ専用です。他のカメラにはご使用になれません。

クォーツデータバックE



EOSカメラ専用のデータ写し込み用裏蓋です。次のデータ写し込みをクォーツ制御で行います。

- ①2029年までのオートデート（年・月・日）——大小の月，うるう年の自動修正
- ②24時間表示で日・時・分
- ③任意の6桁の数値
- ④フィルム枚数数値（4桁でFc0001～9999）

テクニカルバックE/キーボードユニットE



名称の“テクニカル”に象徴されるように，データや30桁までのコメントの写し込みやタイマー機能だけでなく，シャッター速度，絞り値，フィルム感度，使用レンズの焦点距離など色々な撮影データを記憶することができます。また，新しいプログラム線図を2種類インプットすることもできます。

- インターフェイスユニットTBを介してパソコンと接続すれば，コンピューター側からカメラを作動させることもできます。
- キーボードユニットEを使用すれば，コメントは片仮名，英語，仏語，独語および西語で入れることができます。

視度補正レンズE



視度補正レンズEを取り付ければ、近視、遠視の方でも眼鏡なしで撮影することができます。カメラ本体の視度は-1ジオプターですが、交換用視度補正レンズとして計10種類あります。実際にカメラに取り付けてのぞいて確かめてから選んでください。

視度補正レンズEは、視度補正レンズ自身と着脱式のラバーフレーム（アイカップ）からできています。ラバーフレームを外せば、視度補正レンズはAシリーズおよびTシリーズカメラにも取り付けてご使用になれます。

円偏光フィルターPL-C



キヤノン円偏光フィルターPL-Cを取り付ければ、直線偏光フィルターとは違い、そのままAF撮影が可能です。フィルター径は52mm、58mm、72mmの3種類です。

交換グリップ



グリップは目的に応じて交換することができます。以下の3種類があります。

- ①GR30——EOS 650に標準装備、リモートコントロール用端子なし。
- ②GR20——EOS 620に標準装備、リモートコントロール用端子あり。大きさはGR30と同じ。
- ③GR10(グリップL)——手の大きな方用。リモートコントロール用端子なし。

《手入れ》

どんなに優れたカメラでも適切な手入れをしなければ、その性能を十分に発揮できません。常に手入れをするように心がけてください。

手入れ用具：ブロワーブラシ、クリーナー液、クリーニングペーパー、シリコンクロス等

①レンズとファインダー接眼部

ブロワーブラシで砂やほこりを吹き払い、クリーナー液を含ませたクリーニングペーパーで軽く拭き取ってください。

②カメラの反射ミラー、フォーカシングスクリーン
ブロワーブラシで吹き払うだけにしてください。どうしても拭かなければならないときは、最寄りのキャノンサービスステーションにお持ちください。

③フィルム室内

フィルムかすなどが付きやすいので、常にゴミをブロワーブラシで吹き払うようにしてください。ゴミや砂があるとフィルムを傷つける原因となります。

④レール面や圧着板

クリーナー液とクリーニングペーパーを使用して拭いてください。

- シャッター幕には絶対に手を触れないようご注意ください。
- 海辺で使用した後は、カメラに塩分が付いていますので特によく拭いてください。
- エアポンベタイプのブロワーの使用はおすすめできません。もし使用する際は、シャッター幕から20cm以上離してお使いください。

《保管》

カメラケースを外し、電池を抜き取って、湿気やほこりのないところに保管してください。また、カメラは長期間使用しないでおくとかびや故障の原因となることがありますので、ときどきシャッターを切るようにしてください。特に保管する場合、次のような場所は避けてください。

- 1) 車のトランクやリヤウインドーなどは高温になり、故障の原因となることがあるため避けてください。
- 2) 実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐食などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。

長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。

長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスステーション、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

1. 液晶表示パネルについて

カメラの表示パネルには液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用で5年程度経過すると表示が薄くなり読みにくくなる場合があります。その場合は最寄りのキヤノンサービスステーションで液晶の交換をご用命ください。(有料)

なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

2. bc表示の点滅について

電池電圧が極端に低下した場合や、カメラが誤動作・故障した場合は、表示パネル上でbcが点滅することがあります。以下の操作を行ってください。

- 1) 電池チェックボタンで電池電圧を確認します。P.9の説明にしたがい、もし電池電圧が低下していれば電池を交換してください。
- 2) 電池電圧に問題がなければ、電池を1度取り出し、再度入れてください。
- 3) 1度シャッターを切ります。

以上の操作を行って、bcの点滅が消れば、正常に

撮影を続けることができます。しかし、この操作を何度繰り返してもbcの点滅が消えないときはカメラの故障です。最寄りのキヤノンサービスステーションにお持ちください。

3. リチウム電池について (その1)

カメラは電池（リチウム電池パック2CR5, 6V 1個）を正しく入れてはじめて作動します。次のようなときは、まず電池チェックマークで確認してください。

- ①電池を交換したとき
 - ②長期間カメラを使用しなかったとき
 - ③シャッターが切れなくなったとき
 - ④寒冷地で撮影するとき
 - ⑤その他、大切な写真を撮るときなど
- 電池をカメラに入れるときは、電池接点の汚れや指紋などをよく拭き取ってください。そのまま入れると接触不良や腐食の原因となることがあります。
 - 長期間使用しないときは、電池を抜き取って保管してください。
 - 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。

- この電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは、予備の電池を用意し、ポケットなどに入れ保温しながら交互に使用することをおすすめします。

4. リチウム電池について (その2)

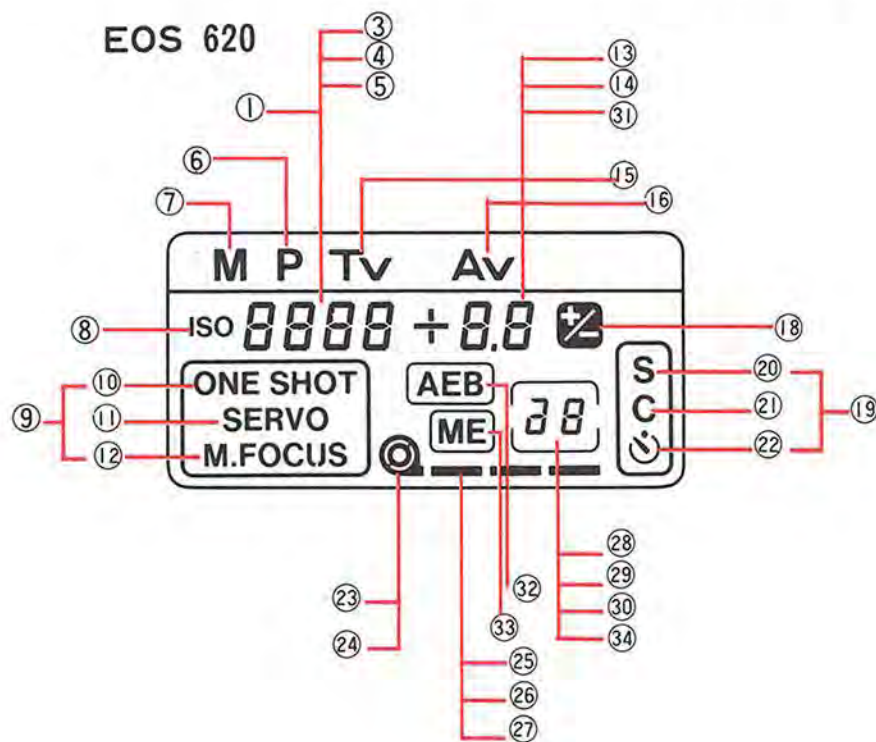
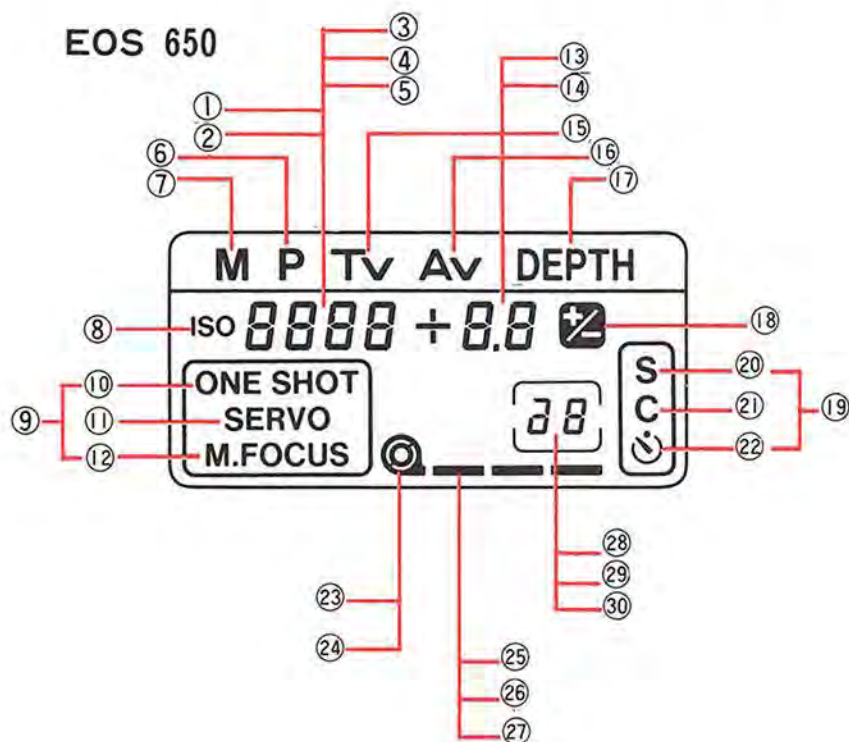
表示パネルの電池チェックマークが点滅または無表示となっても、シャッターが切れれば写真は適正露出になります。但し、電池電圧が低下しているため、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあります。また、巻き上げ／巻き戻し途中でカメラが停止してしまったときは、表示パネルでフィルム給送マーク全体が点滅して警告をします。(巻き戻しは新品電池に交換した後、途中巻き戻しボタンを押せば継続作動します。)

5. フィルムのX線による感光防止について

フィルムはカメラに入っている場合でも、空港でのX線検査による感光は防止されません。フィルムの入ったカメラであることを検査官に伝え、X線の照射を避けてください。

このカメラは撮影のための情報を、大型の液晶表示パネルに表示します。下の図は情報をすべて表

示したのですが、通常は必要な情報だけが表示されますので混乱する心配は全くありません。



- ① 電池チェック
- ② 深度優先AE表示(dEP 1, dEP 2)
- ③ フィルム感度数値
- ④ シャッター速度
- ⑤ マニュアル露出レベル
- ⑥ プログラムAE
- ⑦ マニュアル
- ⑧ フィルム感度
- ⑨ AFモード

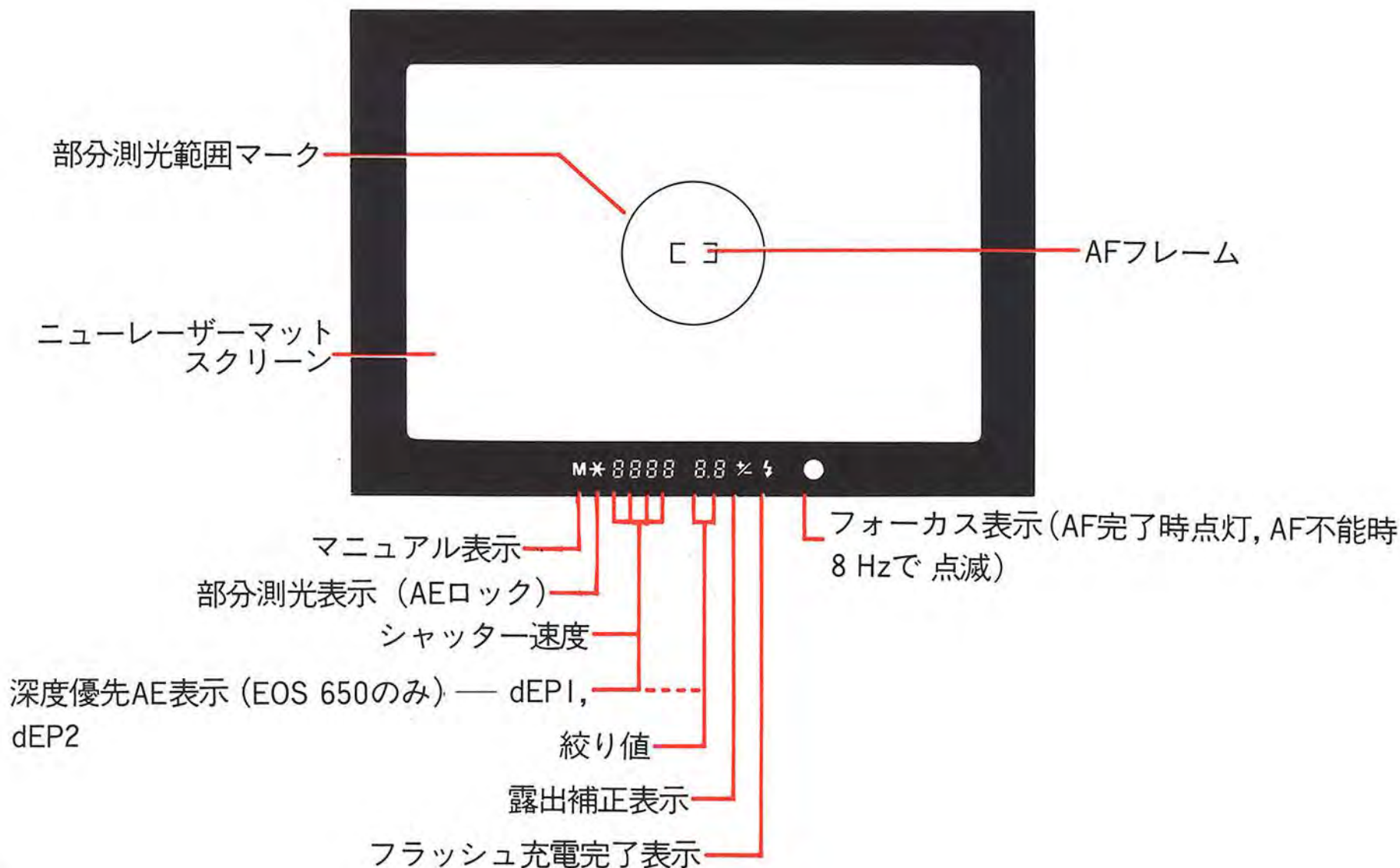
- ⑩ ワンショットAF
- ⑪ サーボAF
- ⑫ 手動ピント合わせ
- ⑬ 絞り値
- ⑭ 露出補正段数
- ⑮ シャッター優先AE
- ⑯ 絞り優先AE
- ⑰ 深度優先AE
- ⑱ 露出補正表示

- ⑲ フィルム巻き上げモード
- ⑳ 1枚撮り
- ㉑ 連続撮影
- ㉒ セルフタイマー
- ㉓ フィルム在否確認
- ㉔ フィルム巻き戻し完了
- ㉕ フィルム給送(巻き上げ/巻き戻し)
- ㉖ フィルム巻き上げ完了
- ㉗ 電池チェック

- ㉘ フィルム枚数計
- ㉙ セルフタイマー秒時
- ㉚ バルブ露出時間
- ㉛ オートブラケティング段数
- ㉜ オートブラケティング表示
- ㉝ 多重露出表示
- ㉞ 多重露出回数

2.ファインダー表示一覧

明るく見やすいファインダーです。下の図はすべてを表示したのですが、実際は必要な情報だけを視野外に表示します。



3. フィルム給送本数(電池寿命)

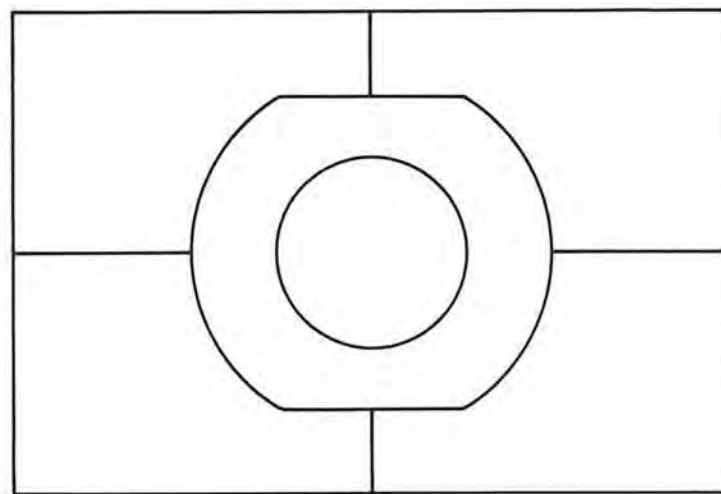
新品のリチウム電池パックを使用，連続撮影モードにて

温度	24枚撮りフィルム	36枚撮りフィルム
常温(20°C)	150本	100本
低温(-20°C)	15本	10本

(当社試験条件による)

4. 評価測光特性

下の図のように，評価測光はファインダー画面内を6つの部分に分割して測光します。測光は主被写体に重点を置きながら，光の状況や被写体のパターン・大きさを分析して行われますので，逆光でも露出補正をかけることなく適正露出が得られます。また，部分測光ボタンを押せば，評価測光は自動的に部分測光（ファインダー画面の約6.5%）に切り換わります。



5. AFモードとフィルム給送の関係(評価測光時)

	ONE SHOT(ワンショット)	SERVO(サーボ)
S: single (1枚撮り)	AF完了と同時にAFロック(ピント位置ロック)および評価測光状態でAEロック(撮影前に露出の値を記憶)。	AFは被写体の動きに合わせて追従。露出はシャッターを切る瞬間に決まる。
C: continuous (連続撮影)	上と同じ条件で連続撮影となる。	上と同じ条件で連続撮影となる。(AFは連続撮影中も作動)

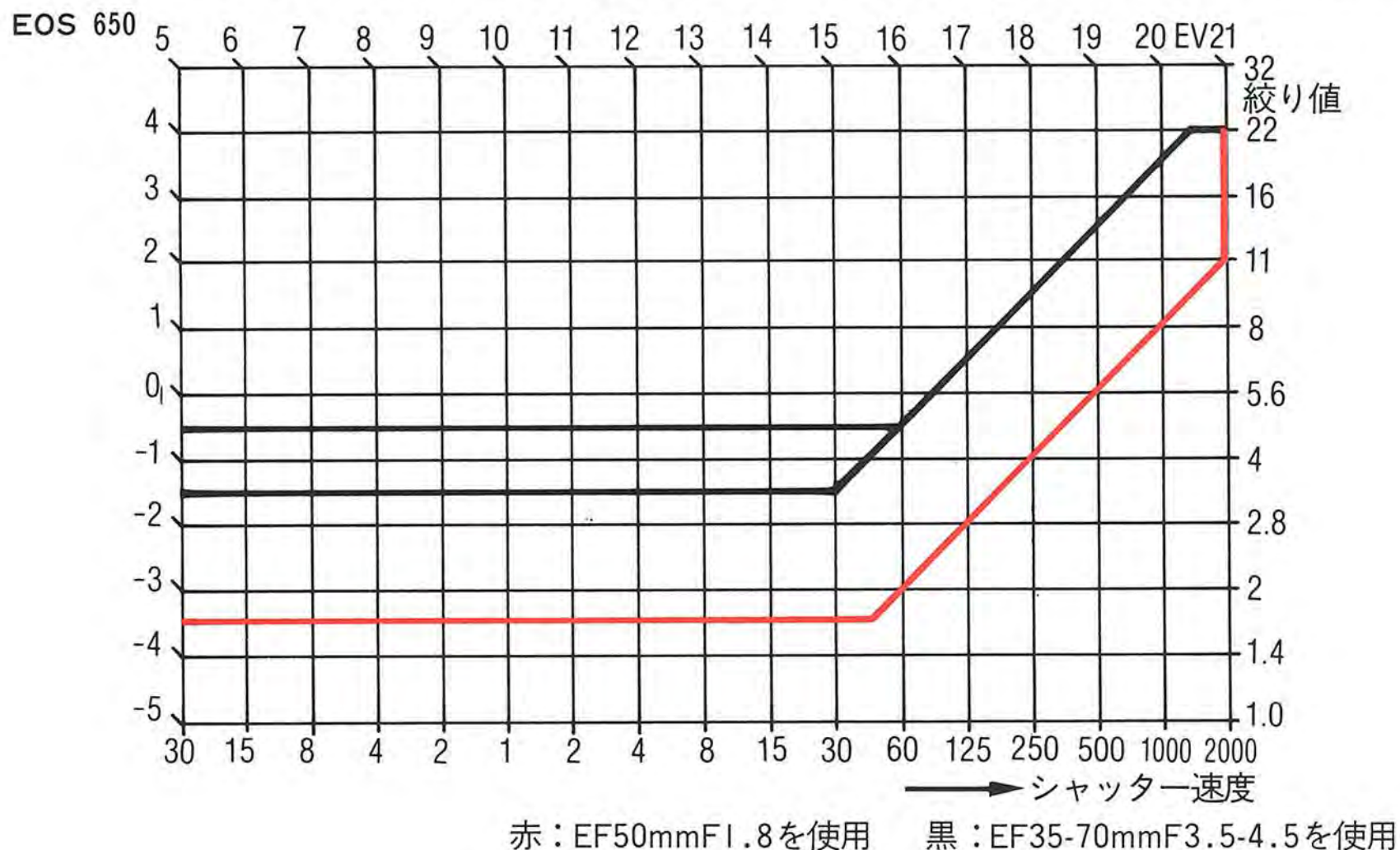
- 部分測光はカメラの撮影モードにかかわらず使用することができます。(但し全自動位置をのぞく)
- 露出補正はカメラの撮影モードおよび測光モードにかかわらず使用することができます。(但し全自動位置をのぞく)

メインスイッチが全自動位置(P.14参照)にセットされているときは、電池チェックおよび途中巻き戻し以外の操作はできません。

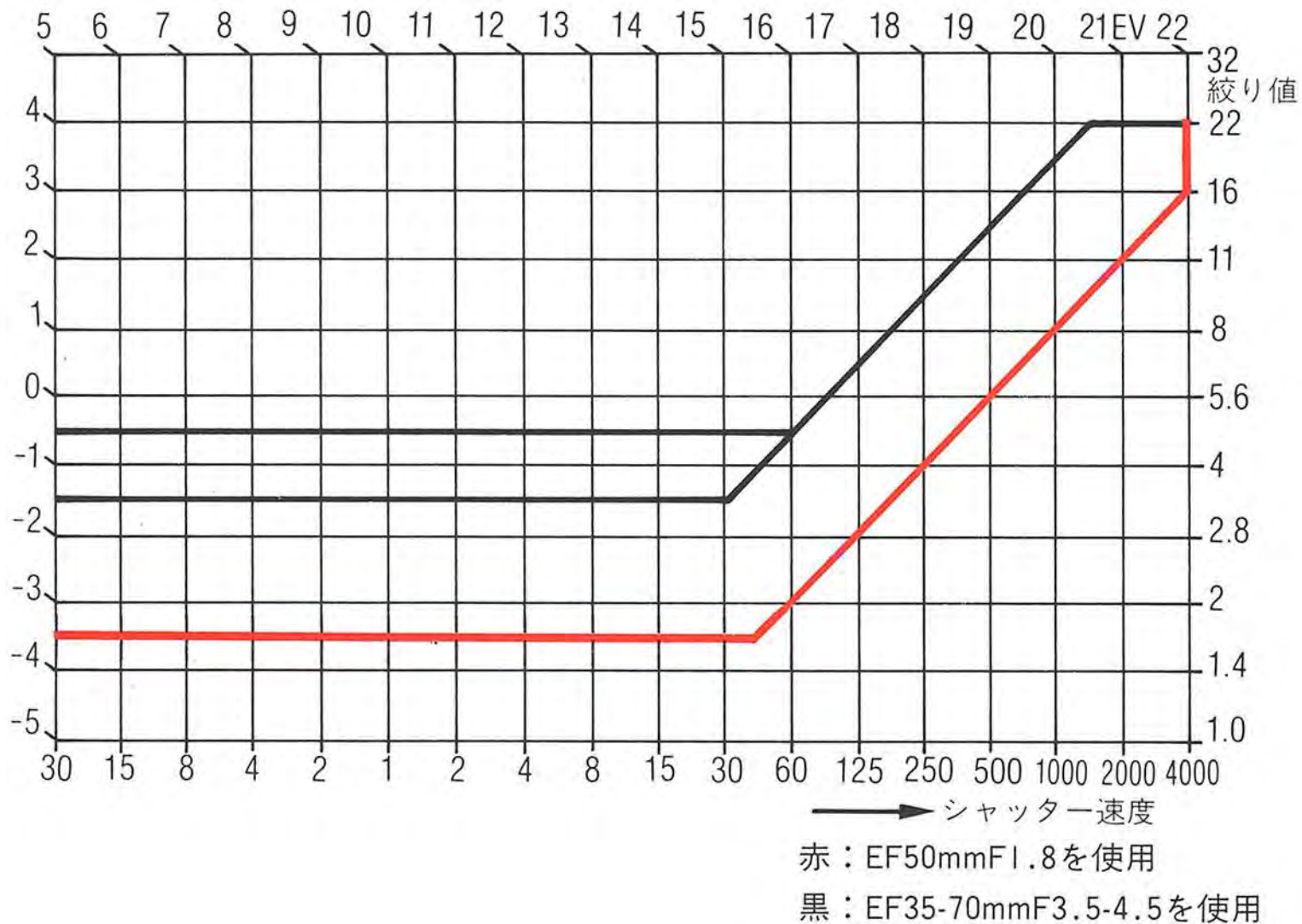
6. プログラム線図

このカメラは使用レンズの特性（開放および最小絞り値、焦点距離など）に合わせて最適なプログラム線図を選びます。自動的にセットされたシャッター速度が使用レンズの1/焦点距離マイナス0～0.5段の値になると手振れ警告音を出しま

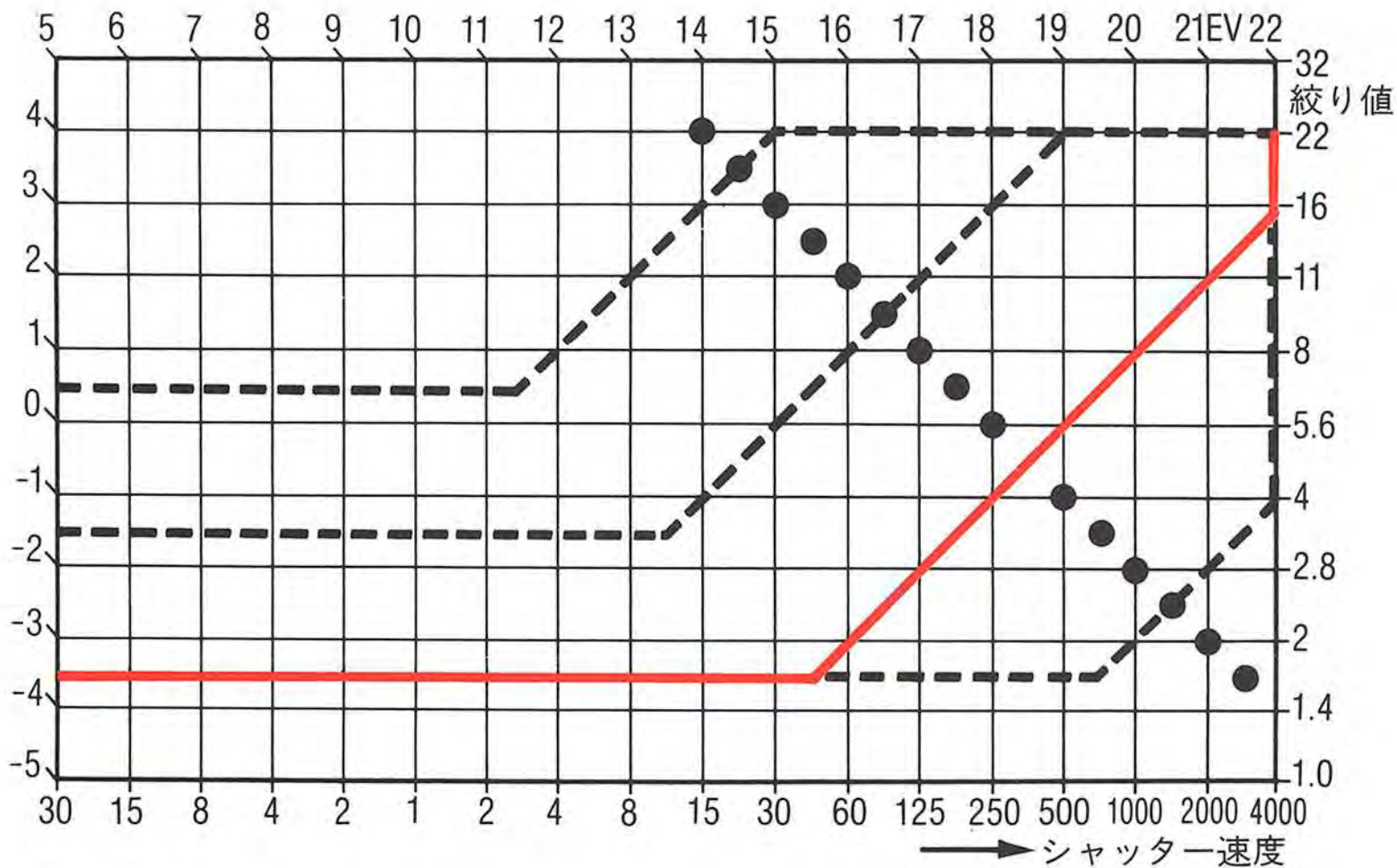
す。これは一般に、1/焦点距離のシャッター速度が手持ち撮影の限界とされているためです。従ってプログラム線図は使用するレンズによってすべて異なりますが、ここでは代表的な2本のレンズを装着したときのプログラム線図を掲載します。



EOS 620



プログラムシフト特性(EOS 620のみ)
 (EF50mmF1.8を使用, EVI3での例)



●はプログラム線図をシフトすることで
 可能なシャッター速度と絞り値の組み合
 わせです。

主要性能

型式：モータードライブ内蔵35mmフォーカルプレーンシャッターAF/AE一眼レフカメラ

画面サイズ：24×36mm

使用レンズ：EFレンズ群（開放測光にて使用）

標準レンズ：EF50mmF1.8

レンズマウント：キヤノンEFマウント（完全電子制御方式）

ファインダー：ペンタプリズム使用のアイレベル式

視野率：上下94%，左右94%

倍率：0.8倍（50mmレンズ付き無限遠状態で）

標準視度：-1.0ジオプター（アイポイント19.3mm）

フォーカシング：交換可能，標準仕様（Cタイプ）を含み計

スクリーン 7種類

ミラー：クイックリターン式ハーフミラー

ファインダー情報：ファインダー視野外，下部に点灯表示

(1)7セグメントLCDによるデジタル数値および文字

表示

①シャッター速度——測光連動範囲外時は2 Hzの点滅で警告

②絞り値——測光連動範囲外時は2 Hzの点滅で警告

③マニュアル露出レベル——OP, oo, CL

④深度優先AE(EOS 650のみ)——dEPI, dEP2

(2)LCDマスク照明による文字表示

①*…部分測光時のAEロック表示

②M…マニュアル露出表示

③⚡…フラッシュ充電完了表示

④+/-…露出補正表示

⑤●…フォーカス表示（AF測距不能時8 Hzの点滅警告）

測光方式：受光素子に6分割SPC使用のTTL開放測光（絞り込み測光は不可）

評価測光と部分測光の切り換え可能（部分測光はファインダー画面の約6.5%）

露出制御方式：

- ①シャッター優先AE
- ②絞り優先AE
- ③インテリジェントプログラムAE
- ④プログラムシフト機能(EOS 620のみ)
- ⑤深度優先AE(EOS 650のみ)
- ⑥マニュアル
- ⑦フラッシュAE(専用スピードライトを使用してA-TTLおよびTTLプログラムフラッシュAE)

手振れ警告：インテリジェントプログラムAE、絞り優先AE、およびEOS 650の深度優先AE時に作動。自動的にセットされたシャッター速度が使用レンズの1/焦点距離マイナス0～0.5段以下となった場合に、電子ブザー音で警告。(電子ブザー音はON/OFF選択可能)

測光連動範囲：EV 1 (常温時は-1)～20 (50mmF1.4レンズ、ISO100に換算)

使用フィルム感度：ISO 6～6400 (DXコード規格に準じてISO25～5000は1/3段ずつすべて自動セット)

露出補正：1/2段ずつ±5段

オートブラケットング(EOS 620のみ)：1/2段ずつ±5段。セットされた値にしたがい、露出アンダー、カメラの露出計による適正および露出オーバーの順で3枚を連写。

多重露出(EOS 620のみ)：

9回までの予約可能。予約回数撮影後に自動的に解除。

AF制御方式：TTL-SIR方式 (TTL 2次結像位相差検出方式)。

AF用センサーに増幅器一体型のBASIS (Base-Stored Image Sensor)使用。測距完了時、フォーカス表示点灯と電子ブザー音によるフォーカス音で告知 (測距不能時フォーカス表示は8Hzの点滅で警告、フォーカス音はON/OFF選択可能)

- ①ワンショットAF——測距完了にて停止。測距完了後にリリース可能
- ②サーボAF——被写体の動きに追従。測距完了にかか

わらず随時リリース可能。

③マニュアル——フォーカスモードスイッチをMにし、手動フォーカスリングを回すことにより可能

AF測距輝度範囲：EV 1～18 (ISO100)

AF補助光：専用キヤノンスピードライト使用时、必要に応じてフラッシュから自動的に投光（超高輝度赤色LED——ピーク波長700nm）

シャッター：縦走りフォーカルプレーン式全速電子制御シャッター

シャッター速度：EOS 650：1/2000～30秒およびバルブ、X接点は1/125秒

EOS 620：1/4000～30秒およびバルブ、X接点は1/250秒
（両機種とも1/2段ずつのセット可能）

セルフタイマー：電子制御式（時限約10秒）、セルフタイマ

——作動表示LEDの点滅により告知

フィルム装てん：自動。フィルムをセット後裏蓋を閉じると、フィルムの1枚目まで自動空送りし停止（約1.5秒）

巻き上げ：専用小型モーターによる自動巻き上げ

①S（1コマ撮影）

②C（秒間最高約3コマで連続撮影）

巻き戻し：フィルム終了と同時に専用小型モーターにより自動巻き戻し（24枚撮りフィルムでEOS 650は約10秒、EOS 620は約7秒）

フラッシュ接点：アクセサリ一部に直結接点あり。専用キヤノンスピードライト使用时は先幕シンクロと後幕シンクロの切り換え可能

フラッシュオート：専用キヤノンスピードライトA-TTL、カメラ本体がプログラムAE状態にて。フラッシュ側の近赤外光とカメラ本体のA-TTLプログラムにより、撮影距離、被写

写体条件に応じて最適な調光絞り値を自動セット。シャッター速度はEOS 650の場合は1/60～1/125秒の範囲内で自動セット、またEOS 620の場合は1/60～1/250秒の範囲内で自動セット。フィルム面反射測光によるTTL自動調光制御。
自動日中シンクロ可能。

グリップ：交換可能、標準仕様を含み計3種類

- ①GR30——リモートコントロール端子なし(EOS 650に標準装備)
- ②GR20——リモートコントロール端子あり(EOS 620に標準装備)
- ③GR10 (グリップL)——リモートコントロール端子なし

被写界深度確認：被写界深度確認ボタンを押すことにより可能

液晶表示パネル：撮影モード、AFモード、フィルム巻き上げモード、シャッター速度、絞り値、フィルム感度、電池チェック等の表示を必要に応じて行う機能を持つ。EOS 620は均一照明可能。

電源：リチウム電池パック(2CR5, 6V)1個

バッテリーチェック：電池チェックボタンにより液晶パネル上で3段階表示

裏蓋：クォーツデートバックEおよびテクニカルバックEと交換可能

大きさ：148(W)×108.3(H)×67.5(D)mm

重量：EOS650——660g(ボディのみ)

EOS620——700g(ボディのみ)

都合により製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

(データはすべて当社試験条件によります。)

アフターサービス

- 1.保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛りはお客様にてご負担願います。
- 2.本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために不可欠な部品)は、日本国内において、10年間を目安に保有してしています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、裏表紙記載の当社サービス機関にお問い合わせください。
- 3.修理品をご送付の場合は、見本のフィルムを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

⑳ ファインダー接眼部

㉔ 照明ボタン (EOS 620のみ)

㉑ フィルム在否確認窓

㉕ 部分測光ボタン

㉒ スイッチカバー

㉖ グリップ着脱ネジ

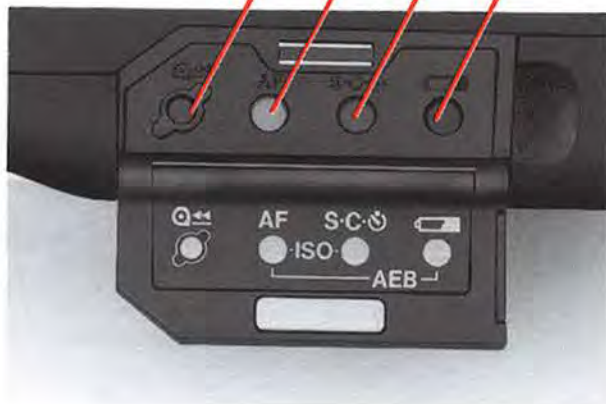
㉓ 三脚ネジ穴



スイッチカバー内

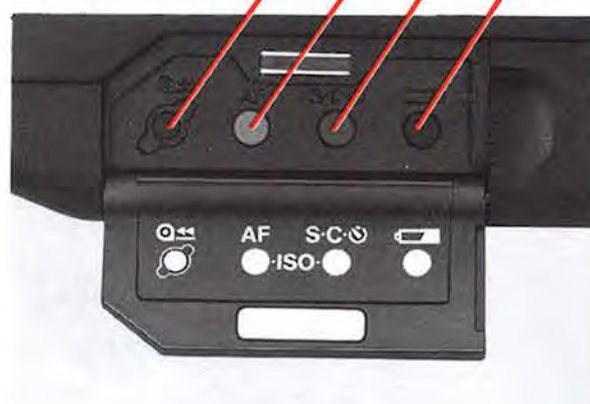
EOS 620

㉗ ㉘ ㉙ ㉚



EOS 650

㉗ ㉘ ㉙ ㉚



㉗ 途中巻き戻しボタン

㉘ AFモード選択ボタン

㉙ フィルム巻き上げモード
選択ボタン

㉚ 電池チェックボタン

5. 付属品の扱いについて



1) ストラップ (吊りひも) の先端は、止め金の内側になるように通してください。



2) ケースは写真のようにして取り付けます。



セミハードケースS

セミハードケースL

セミハードケースLL

カメラケース

以下の3種類があります。

- ① セミハードケースS——EF50mm F1.8を取り付けて収納可能。
- ② セミハードケースL——EF35-70mm F3.5-4.5を取り付けて収納可能。
- ③ セミハードケースLL——EF35-105mm F3.5-4.5を取り付けて収納可能。



キヤノン株式会社
キヤノン販売株式会社

〒108 東京都港区三田 3-11-28
カメラ相談室 (03) 455-9353

◎サービスステーション・営業所

札幌	〒060	札幌市中央区北三条西4-1 (第一生命ビル)	☎(011)	231-1353
仙台	〒980	仙台市一番町1-1-30 (やまと生命仙台ビル)	☎(022)	266-4151
新潟	〒950	新潟市東大通り1-4-1 (マルタケビル)	☎(0252)	43-2111
銀座	〒104	東京都中央区銀座5-9-9	☎(03)	573-7834
新宿	〒163	東京都新宿区西新宿2-6-1 (住友三角ビル地下1階)	☎(03)	348-4725
横浜	〒221	横浜市神奈川区鶴屋町3-30-4 (安田生命横浜西口ビル)	☎(045)	312-0211
大宮	〒330	大宮市大成町2-273	☎(0486)	66-3930
静岡	〒420	静岡市鷹匠2-7-2 (静米会館)	☎(0542)	55-2241
名古屋	〒450	名古屋市中村区名駅3-21-7 (三交ビル)	☎(052)	563-6822
梅田	〒530	大阪市北区梅田1-8-17 (第一生命ビル)	☎(06)	341-9335
京都	〒604	京都市中京区東洞院通御池下ル笹屋町435 (京都御池第一生命ビル)	☎(075)	241-0216
金沢	〒920	金沢市玉鉾2-266	☎(0762)	91-1215
高松	〒760	高松市紺屋町9-6 (高松大同生命ビル)	☎(0878)	22-3666
岡山	〒700	岡山市中山下1-9-40 (新岡山ビル)	☎(0862)	22-8228
広島	〒730	広島市中区小町2-30 (第二有楽ビル)	☎(082)	245-7791
福岡	〒812	福岡市博多区美野島1-2-1 (キヤノン販売福岡ビル)	☎(092)	411-4173
沖縄	〒902	那覇市安里102 (日本生命安里ビル)	☎(0988)	67-2106

◎営業所

千葉	〒280	千葉市末広2-13-2	☎(0472)	61-5121
大分	〒870	大分市城崎町1-3-31 (富士火災大分ビル)	☎(0975)	37-4117

◎サービスセンター

東京	〒108	東京都港区港南2-13-29	☎(03)	450-2731
大阪	〒540	大阪市東区森の宮中央2-10-9	☎(06)	941-1076

◎休業のご案内

新宿(第3木曜日)銀座・梅田(日曜日・祝日)その他(土・日曜日・祝日)